

A d v a n c e C A D

DXF・DWG インタフェース ユーザーズマニュアル

Advance CAD software version 22

Advance CAD オプションソフトウェア
DXF・DWG インタフェース ユーザーズ マニュアル

Advance CAD software version 22

2025 年 1 月 15 日 第1版

Copyright © 1986-2025 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
〒105-6950 東京都港区虎ノ門 4-1-1 神谷町トラストタワー

本書の内容の一部または全部を無断転載することを禁止します。
本書の内容に関しては将来予告無しに変更することがあります。
本書は将来の開発による変更を前提としています。本書は現時点でできる限り正確に記述するよう心がけました。しかし弊社は提供した資料に基づくいかなる損害の責任も負いません。また将来の開発により生ずる変更によるいかなる損害についても責任を負いません。

MS, MS-DOS, Windows, Windows NT, Windows 2000, Windows XP, Windows Vista, Windows 7, Windows 10, Windows 11, Visual C++ および Microsoft は Microsoft Corporation の商標または登録商標です。

SolidWorks および SolidWorks のロゴは SolidWorks 社の登録商標です。

FlexNet Publisher は Revenera Software 社の登録商標です。

libtiff の著作権は以下のとおりです。

Copyright (c) 1988-1996 Sam Leffler

Copyright (c) 1991-1996 Silicon Graphics, Inc.

各会社名、各製品名は各社の商標または登録商標です。

はじめに

本書は Advance CAD システム DXF・DWG オプションソフトウェアの使用方法について記述します。

● 技術的なお問い合わせ先

Advance CAD の技術的なご質問は下記で受付けております。
Advance CAD ソフトウェア保守契約に加入されているお客様に限らせていただきます。

----- Advance CAD サポートサービス -----

E-mail : acad_support@ctc-g.co.jp

----- 受付時間 : 平日 9:00 ～ 17:30 -----



目次

第 1 章 DXF・DWG インタフェース	1
1.1 概要	1
1.2 DXF・DWG インタフェース使用に伴う環境設定	3
1.3 DXF・DWG 読み込みによるセッションファイルの切り替え	4
第 2 章 DXF/DWG 読み込み	5
2.1 DXF/DWG 読み込み	5
2.1.1 DXF/DWG ファイルを読み込む	5
2.1.2 シェイプファイルを参照した DXF/DWG ファイルを読み込む	5
2.1.3 フロッピーディスクにある DXF/DWG ファイルを読み込む	5
2.1.4 既存のモデル上に DXF/DWG ファイルを読み込む	6
2.1.5 格納先ピクチャを選択する場合	6
2.1.6 座標変換を指示する	6
2.1.7 文字列高さ倍率を指定する	6
2.1.8 レイヤ→クラス変換テーブルファイルを設定する	7
2.1.9 分割変換時のサブモデル名の指定	7
2.1.10 変換パラメータを設定する	7
2.1.11 属性変換方法を指定する	7
2.1.12 コマンド構文	8
2.1.13 一括変換	8
2.1.14 コマンド構文	9
2.2 変換対応表	10
2.2.1 図形要素対応表	10
2.3 線種・線幅変換テーブルファイル	12
2.3.1 線幅の割当て方法	12
2.3.2 線種の割当て	12
2.3.3 線幅の割当て	13
2.3.4 線幅の割当て (DXF/DWG Ver 2000 から採用された線の太さに対応)	13
2.3.5 色コードの線幅割当て	13
2.3.6 DXF/DWG → Advance CAD データ変換 線種・線幅変換対応表	14
2.3.7 DXF/DWG → Advance CAD 線種・線幅変換テーブルファイルの例	15
2.4 レイヤと色変換テーブルファイル	16
2.4.1 レイヤと色の割当て	17
2.4.2 レイヤのクラス割当て	17
2.4.3 レイヤのレビジョン割当て	17
2.4.4 色コードのクラス割当て	17
2.4.5 色コードのレビジョン割当て	17
2.4.6 DXF/DWG レイヤ → Advance CAD クラス変換テーブルファイルの例	18
2.5 データ 変換パラメータファイル	19
2.5.1 漢字コード	22
2.5.2 塗潰し (ポリライン)	22
2.5.3 寸法線	23
2.5.4 文字角度	23
2.5.5 分割アイテム数の指定 (モデル)	23
2.5.6 複合図形分割アイテム数の指定	23
2.5.7 最大アイテム数の指定	23
2.5.8 寸法線角度	24
2.5.9 非表示アイテム変換の指定	24
2.5.10 複合図形及び外部参照図形変換の指定	24
2.5.11 シンボルの上書き指定	25
2.5.12 ビューゾーン処理	25
2.5.13 改行処理	25

目次

2.5.14 単精度実数値の丸め	25
2.5.15 丸めを行う桁	25
2.5.16 丸めを行う桁（角度）.....	26
2.5.17 スプラインの分割数の指定	26
2.5.18 スプラインの変換方法の指定	26
2.5.19 レイヤ属性の変換方法指定	26
2.5.20 線種属性の変換方法指定	27
2.5.21 線幅属性の変換方法指定	27
2.5.22 既定義線幅の指定	28
2.5.23 色属性の変換方法指定	28
2.5.24 寸法矢印の変換方法指定	28
2.5.25 文字幅の変換方法指定	29
2.5.26 DXF /DWG → Advance CAD 変換パラメータファイルの例	29
2.6 寸法線矢印変換テーブル	30
2.6.1 矢印の割当て	30
2.6.2 DXF → Advance CAD 寸法線矢印変換テーブルファイルの例	30
2.7 文字間隔変換テーブルファイル	31
2.7.1 字体の文字間隔	31
2.7.2 注記の全角から半角変換	32
2.7.3 寸法値の全角から半角変換	32
2.7.4 DXF/DWG → Advance CAD 文字間隔変換テーブルファイルの例	32
2.8 外字変換テーブルファイル	33
2.8.1 変換テーブルの説明	33
2.8.2 DXF/DWG → Advance CAD 外字変換テーブルファイルの例	33

第 3 章 DXF/DWG 書込み 35

3.1 DXF/DWG 書込み	35
3.1.1 図面配置されたピクチャの図面データを DXF/DWG ファイルに書込む	35
3.1.2 現ピクチャの図面データを DXF/DWG ファイルに書込む	35
3.1.3 ピクチャ番号を指定して図面データを DXF/DWG ファイルに書込む	35
3.1.4 フロッピーディスクへ DXF/DWG ファイルの書込を行う	36
3.1.5 クラス→レイヤ変換テーブルファイルを設定する	36
3.1.6 変換パラメータを設定する	36
3.1.7 属性（レイヤ、線種、線幅、色）変換方法を指定する	36
3.1.8 塗潰しの出力方式設定を指定する	36
3.1.9 自由曲線出力方式設定を指定する	37
3.1.10 コマンド構文	37
3.1.11 一括変換	38
3.1.12 コマンド構文	38
3.2 変換対応表	40
3.3 線種・線幅変換テーブル	42
3.3.1 線幅の割当て	42
3.3.2 線種・線幅の割当て	42
3.3.3 線幅の割当て	43
3.3.4 線種ピッチの指定	43
3.3.5 線種の注釈の指定	43
3.3.6 デフォルト線種・線幅変換対応表	44
3.3.7 Advance CAD → DXF/DWG 線種・線幅変換テーブルファイルの例	44
3.4 クラス／ピクチャ 変換テーブルファイル	46
3.4.1 ピクチャ割当ての廃止	46
3.4.2 複合アイテムのクラスのレイヤ割当ての制御	47
3.4.3 ピクチャの割当て	47
3.4.4 クラスの割当て	47
3.4.5 色コードの割当て	47

目次

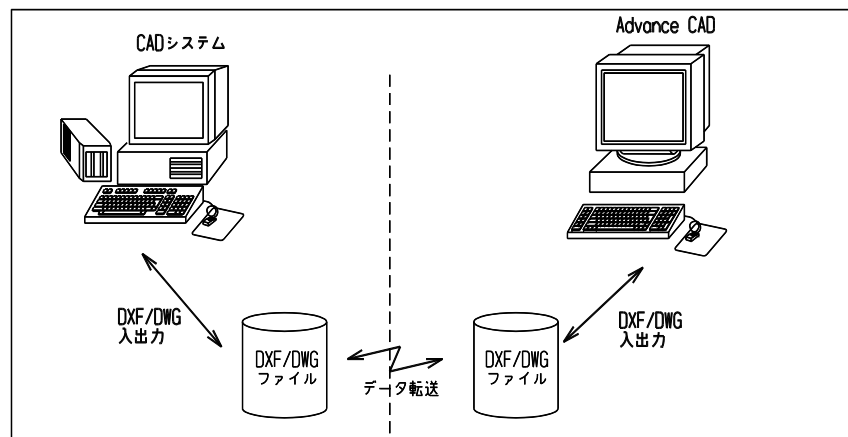
3.4.6 Advance CAD クラス／ピクチャ → DXF/DWG レイヤ変換テーブルファイルの例...	48
3.5 変換パラメータファイル	49
3.5.1 DXF の書式を指定	52
3.5.2 DXF/DWG のバージョンを指定	52
3.5.3 座標系を指定	52
3.5.4 サブモデルの変換方法	52
3.5.5 シンボルの変換方法	52
3.5.6 シンボルの複合図形名称	53
3.5.7 マークの変換方法	53
3.5.8 幾何公差の変換方法	53
3.5.9 複合アイテムの変換方法	53
3.5.10 ハッチングの変換方法	53
3.5.11 寸法線の変換方法	54
3.5.12 スtringの変換方法	54
3.5.13 注記の変換方法	54
3.5.14 自由曲線の変換方法	54
3.5.15 楕円の変換方法	54
3.5.16 漢字コード	55
3.5.17 非表示アイテムの変換	55
3.5.18 文字角度の変換	55
3.5.19 レイヤの変換元を指定	55
3.5.20 レイヤの変換方法	55
3.5.21 レイヤ名がない場合の処理	56
3.5.22 レイヤ名の命名規則	56
3.5.23 線種の変換方法	56
3.5.24 線種名がない場合の処理	57
3.5.25 線幅の変換方法	57
3.5.26 線幅がない場合の処理	57
3.5.27 線幅を持たないバージョンの処理	57
3.5.28 色の変換方法	58
3.5.29 矢印の変換方法	58
3.5.30 Advance CAD → DXF/DWG 変換パラメータファイルの例	59
3.6 文字間隔変換パラメータ	60
3.6.1 文字間隔の指定	60
3.6.2 2 バイト文字の変換指定	60
3.6.3 Advance CAD → DXF/DWG 文字間隔変換パラメータファイルの例	61
3.7 寸法矢印変換パラメータ	61
3.7.1 マークの矢印割当て	61
3.7.2 寸法矢印変換パラメータの例	61
 第 4 章 DXF 文字修正	 63
4.1 文字修正コマンド	63
 第 5 章 線種設定・変更	 65
5.1 線種設定・変更コマンド	65
 第 6 章 線幅設定・変更	 67
6.1 線幅設定・変更コマンド	67

目次

第1章 DXF・DWG インタフェース

1.1 概要

Advance CAD では、DXF/DWG ファイルの入出力機能を用意しています。
DXF は、Auto CAD のデータ交換フォーマットファイルです。
DWG は、Auto CAD の図面データファイルです。



- DXF 入力、ファイルバージョン AC1006, AC1009, AC1012, AC1014, AC1015, AC1018, AC1021, AC1024 に対応しています。
- DWG 入力、ファイルバージョン AC1009, AC1012, AC1014, AC1015, AC1018, AC1021, AC1024 に対応しています。
- DXF 出力、ファイルバージョン AC1006, AC1012, AC1014, AC1015, AC1018, AC1021, AC1024 に対応しています。
- DWG 出力、ファイルバージョン AC1012, AC1014, AC1015, AC1018, AC1021, AC1024 に対応しています。

※ パスワードが設定された DWG ファイルは読込むことが出来ません。

○ DWG・DXF のファイルバージョンと AutoCAD のバージョンの対応。

DXF, DWG バージョン	Auto CAD バージョン
AC1006	GX- III
AC1009	GX-5, R12
AC1012	R13
AC1014	R14
AC1015	2000, 2000i, 2002
AC1018	2004
AC1021	2007, 2008, 2009
AC1024	2010, 2011, 2012

○ DXF のファイルバージョンの調べ方

テキストエディタで DXF ファイルを開いて先頭行から数行のところに次の行を探してください。

```
0
SECTION
2
HEADER
.
.
.
9
$ACADVER    <-- 検索する場合はこの文字をキーワードにしてください
1
AC1015      <-- DXF のファイルバージョン
```

○ DWG のファイルバージョンの調べ方

・DOS 窓にて次のコマンドを使用して調べることができます。

```
find "AC1" file_name    <----- 入力

----- file_name      <----- 結果
AC1xxx
-----+-----
|
+----- DWG のファイルバージョン
```

1.2 DXF・DWG インタフェース使用に伴う環境設定

● コンフィグレーションファイル内で定義されているキーワード

#ACAD:EXE#	:	DwgI0.exe ファイルがあるディレクトリ名を指定する。
#DWG#	:	DWG ファイルのディレクトリと拡張子を指定する。
#DXF#	:	DXF ファイルのディレクトリと拡張子を指定する。
#DXF:SHAPE#	:	シェイプファイルのディレクトリと拡張子を指定する。
#DXF:WORK#	:	作業用ファイルのディレクトリと拡張子を指定する。
#DXF:TABLE#	:	変換テーブルファイルのディレクトリと拡張子を指定する。
#FLOPPY#	:	フロッピーディスクの装置名を指定する。

● DXF・DWG 読込時に必要な変換テーブル

DXF・DWG 変換で共用

DXF - Advance CAD 文字コード変換テーブル	:	DXFACAD_KANJI.COD
DXF - Advance CAD 線種・線幅変換テーブル	:	DXFACAD_LINE.COD
DXF - Advance CAD レイヤ変換テーブル	:	DXFACAD_LAYER.COD
DXF - Advance CAD 文字幅変換テーブル	:	DXFACAD_STYLE.COD
DXF ストロークフォント文字幅テーブル	:	DXFFONTTABLE.DAT

DXF 変換

DXF - Advance CAD 変換パラメータ	:	DXFACAD_PARAM.COD
---------------------------	---	-------------------

DWG 変換

DWG - Advance CAD 変換パラメータ	:	DWGACAD_PARAM.COD
---------------------------	---	-------------------

注) このファイルがない場合は DXFACAD_PARAM.COD を使用します。

● DXF・DWG 書込み時に必要な変換テーブル

DXF・DWG 変換で共用

Advance CAD - DXF 線種・線幅変換テーブル	:	ACADDXF_LINE.COD
Advance CAD - DXF レイヤ変換テーブル	:	ACADDXF_LAYER.COD
Advance CAD - DXF 文字幅変換テーブル	:	ACADDXF_STYLE.COD
DXF ストロークフォント文字幅テーブル	:	DXFFONTTABLE.DAT

DWG 変換

Advance CAD - DXF 変換パラメータ	:	ACADDXF_PARAM.COD
---------------------------	---	-------------------

DWG 変換

Advance CAD - DWG 変換パラメータ	:	ACADDWG_PARAM.COD
---------------------------	---	-------------------

注) このファイルがない場合は ACADDXF_PARAM.COD を使用します。

● DWG 読込／書込時に必要なファイル

DwgI0.exe

1.3 DXF・DWG 読込みによるセッションファイルの切り替えない

V19.08, 20.01 からは、DXF 読込みでセッションファイルが切り換らないようになりました。

第 2 章 DXF/DWG 読み込み

DXF/DWG ファイルまたはシェイプファイルを Advance CAD へ読み込みます。

DXF ファイルを格納するディレクトリとファイルの拡張子はコンフィグレーションファイル (ACAD.SET) のキーワード #DXF# で指定します。

DWG ファイルを格納するディレクトリとファイルの拡張子はコンフィグレーションファイル (ACAD.SET) のキーワード #DWG# で指定します。

DWG ファイルの読み込みを行うには、コンフィグレーションファイル (ACAD.SET) のキーワード

#ACAD:EXE# で指定されたディレクトリに変換の為の実行モジュール (DwgIO.exe) が必要です。

2.1 DXF/DWG 読み込み

2.1.1 DXF/DWG ファイルを読み込む

- (1) 主メニューの [データ変換 オプション] をクリックし、コマンドメニューの [DXF/DWG 読み込み] をクリックします。
- (2) プロンプト領域に読み込む DXF ファイル名を入力して、リターンを押して DXF/DWG ファイルを読み込みます。

2.1.2 シェイプファイルを参照した DXF/DWG ファイルを読み込む

DXF/DWG ファイルの中でシェイプファイルを使用している場合に、先にシェイプファイルを読み込んでから DXF/DWG ファイルを読み込みます。

- (1) 主メニューの [データ変換 オプション] をクリックし、コマンドメニューの [DXF/DWG 読み込み] をクリックします。
- (2) 修飾子メニューの [シェイプファイル] ボタンをクリックして読み込むシェイプファイル名をプロンプト領域に入力してシェイプファイルを読み込みます。
- (3) 読み込む DXF/DWG ファイル名をプロンプト領域に入力して、DXF/DWG ファイルを読み込みます。

2.1.3 フロッピーディスクにある DXF/DWG ファイルを読み込む

- (1) 主メニューの [データ変換 オプション] をクリックし、コマンドメニューの [DXF/DWG 読み込み] をクリックします。
- (2) フロッピーディスクをフロッピードライブにセットした後に、修飾子メニューの [フロッピー] をクリックしてフロッピーディスクから DXF/DWG ファイルを読み込みます。

注) フロッピーディスクは DOS フォーマットで作成されたものを使用して下さい。

2.1.4 既存のモデル上に DXF/DWG ファイルを読込む

- (1) 主メニューの「データ変換 オプション」をクリックし、コマンドメニューの「DXF/DWG 読込み」をクリックします。
- (2) 修飾子メニューの「追加モード」ボタンをクリックして読込む DXF/DWG ファイル名をプロンプト領域に入力して読込みます。

2.1.5 格納先ピクチャを選択する場合

格納先のピクチャを指定する。省略するとピクチャ 1 から順に格納します。

注) 負の値でピクチャ番号を指定した場合は、すべてのデータを指定したピクチャに格納します。

- (1) 主メニューの「データ変換 オプション」をクリックし、コマンドメニューの「DXF/DWG 読込み」をクリックします。
- (2) 修飾子メニューの「格納先ピクチャ」ボタンをクリックして格納先ピクチャ番号をプロンプト領域に入力します。
- (3) 読込む DXF/DWG ファイル名をプロンプト領域に入力して読込みます。

2.1.6 座標変換を指示する

ピクチャマトリックスの座標系にデータを座標変換します。

入力データの座標系が X-Y でない場合に指示します。

格納先ピクチャを負の値で指定した場合に有効になります。

- (1) 主メニューの「データ変換 オプション」をクリックし、コマンドメニューの「DXF/DWG 読込み」をクリックします。
- (2) 修飾子メニューの「マトリックス無効」ボタンをクリックして「マトリックス有効」にします。
- (3) 修飾子メニューの「格納先ピクチャ」ボタンをクリックして格納先ピクチャ番号負の値でプロンプト領域に入力します。
- (4) 読込む DXF/DWG ファイル名をプロンプト領域に入力して読込みます。

2.1.7 文字列高さ倍率を指定する

DXF/DWG ファイルから Advance CAD へのテキストの文字高さの変換倍率を指定します。Advance CAD ではテキストの文字高さは作図時の文字高さを意味します。

分数での入力も可能です。ただし、分子、分母とも正の整数値を入力します。

例) 倍率が 0.01 の場合、“1/100” と分子と分母を “/” で区切って入力します。

- (1) 主メニューの「データ変換 オプション」をクリックし、コマンドメニューの「DXF/DWG 読込み」をクリックします。
- (2) 修飾子メニューの「倍率」ボタンをクリックして、変換倍率をプロンプト領域に入力してリターンを押し、次に読込む DXF/DWG ファイル名をプロンプト領域に入力して読込みます。

注意：

DXF/DWG ファイルの (図面単位 : 作図単位) が (100:1) の場合は、変換倍率に 0.01 (作図倍率) を指定します。
倍率に 1.0 以外を入力した場合は、レイアウト情報を無視して読み込みます。

2.1.8 レイヤ→クラス変換テーブルファイルを設定する

DXF/DWG のレイヤと Advance CAD のクラス・レビジョンとの対応を指定します。既定値は "DXFACAD_LAYER"。

- (1) 主メニューの [データ変換 オプション] をクリックし、コマンドメニューの [DXF/DWG 読み込み] をクリックします。
- (2) 修飾子メニューの [テーブル選択] ボタンをクリックして、変換テーブルファイル名をプロンプト領域に入力してリターンを押し、次に読み込む DXF/DWG ファイル名をプロンプト領域に入力して読み込みます。

注意：

テーブルファイル名は "DXFACAD_LAYER" の後に任意の名前をつけて下さい。
1 度選択すると次に変更するまで有効です。

2.1.9 分割変換時のサブモデル名の指定

変換後のアイテム数が指定されたアイテム数を越える場合、指定された分割アイテム数でサブモデルに分割変換します。変換結果はそのサブモデルを配置した状態になります。

- (1) 主メニューの [データ変換 オプション] をクリックし、コマンドメニューの [DXF/DWG 読み込み] をクリックします。
- (2) 修飾子メニューの [サブモデル名] ボタンをクリックして、サブモデル名をプロンプト領域に入力してリターンを押し、次に読み込む DXF/DWG ファイル名をプロンプト領域に入力して読み込みます。

2.1.10 変換パラメータを設定する

DXF/DWG から Advance CAD への変換パラメータファイル (DXFACAD_PARAM.COD) の設定・変更及び保存が行えます。

- (1) 主メニューの [データ変換 オプション] をクリックし、コマンドメニューの [DXF/DWG 読み込み] をクリックします。
- (2) 修飾子メニューの [変換 PARM] ボタンをクリックして、描画区域がパラメータ設定画面に代わります。変更する項目をピックアップして変更してください。次に読み込む DXF/DWG ファイル名をプロンプト領域に入力して読み込みます。

2.1.11 属性変換方法を指定する

DXF/DWG から Advance CAD への属性変換方法の設定・変更及び保存が行えます。

保存ファイル名は DXFACAD_PARAM.COD です。

- (1) 主メニューの〔データ変換 オプション〕をクリックし、コマンドメニューの〔DXF/DWG 読み込み〕をクリックします。
- (2) 修飾子メニューの〔属性変換〕ボタンをクリックして、描画区域が属性変換設定画面に代わります。変更する項目をピックして変更してください。次に読み込む DXF/DWG ファイル名をプロンプト領域に入力して読み込みます。

2.1.12 コマンド構文

【メニュー】

〔データ変換 2〕→〔DXF/DWG 読み〕

【構文】

DXF/READ
または
DWG/READ

DXFSHAPE

FLOPPY

[filename]

file

NEW

ADD

WRPIC s]

PICMTXONN

PICMTXOFF

[DXFSCALE s]

[SELECT name]

[SUBMDLNAM name]

[DXFPARAM]

[DXFATTR]

<CE>

[EJECT]

注) filename は、一括変換を参照。

- DXFSHAPE : シェイプファイル名を指示します。
- FLOPPY : フロッピーディスクから DXF ファイルの読み込みを行います。
- file : 読み込むファイル名を指示します。
- NEW : モデルを新規開始してから DXF ファイルを読み込みます。(省略時)
- ADD : 現在作業中のモデル上に DXF ファイルを読み込みます。
- WRPIC s : 格納先のピクチャを指定します。
- PICMTXONN : ピクチャマトリックスでデータを座標変換します。
- PICMTXOFF : 座標変換はしません。
- DXFSCALE s : 文字高さの倍率を指定します。
- SELECT name : レイヤ→クラス変換テーブルファイルを選択します。
- SUBMDLNAM name : 分割変換時のサブモデル名を指定します。
- DXFPARAM : 変換時のパラメータを設定します。
注) 2.5 データ変換パラメータファイルを参照してください。
- DXFATTR : 属性(レイヤ、線種、線幅、色)および矢印の変換方法を指定します。
注) 2.5 データ変換パラメータファイルを参照してください。
- EJECT : フロッピーディスクの使用を終了します。

2.1.13 一括変換

DXF/DWG ファイルを読み込んで Advance CAD モデルファイルに変換します。
個々のファイルの変換は、新規・格納ピクチャ 1 で行います。
既に同じ名前のモデルが存在する場合は上書き保存します。一覧表示時にモデル名の左に * が表示されます。(ダイアログでは○が表示されます。)

- (1) 主メニューの〔データ変換 オプション〕をクリックし、コマンドメニューの〔DXF/DWG 読込み〕をクリックします。
- (2) 修飾子メニューの〔一括変換〕ボタンをクリックして、プロンプト領域に'*'を入力します。描画区域に一覧表が表示されますので該当する項目をピックして選択してください。選択終了後変換します。

2.1.14 コマンド構文

【メニュー】

〔データ変換 2〕→〔DXF/DWG 読込〕

【構文】

DXF/READ FILNAME または DWG/READ FILNAME	$\left[\begin{array}{l} \text{DXFFILE file} \\ \text{FLOPPY} \end{array} \right] \left\{ \begin{array}{l} \text{SELALL} \\ \text{pick [s mdlname subname]} \\ \text{pick} \end{array} \right\} \left[\text{CANCEL} \right] \langle \text{CE} \rangle$
---	---

- DXFFILE file : 一括変換する DXF/DWG ファイル名を指示します。
該当するファイル名の一覧が表示されます。
- FLOPPY : フロッピーのルートディレクトリ下にある DXF/DWG ファイルの一覧が表示されます。
- SELALL : 全ファイルを選択します。
- pick : DXF/DWG ファイルを選択します。
既にファイルが選択されている場合は、ピックする箇所により次のようになります。
- 順序番号・ファイル名 : 選択取り消し。
- 倍率 : 倍率の変更。
- モデル名 : モデル名の変更。
- サブモデル名 : サブモデル名の変更。
- s : 文字高さの変換倍率を入力します。DXFSCALE 参照。
- mdlname : モデル名を入力します。
- subname : サブモデル名を入力します。
- CANCEL : 全てのファイルの選択を取消します。
- <CE> : 変換を開始します。

2.2 変換対応表

2.2.1 図形要素対応表

DXF /DWG → Advance CAD データ変換 図形要素対応表

DXF /DWG	Advance CAD
点	点
線分	線分
円	円
円弧	円弧
太線 注) 線分に変換する場合は線種線幅変換 テーブルファイルを作成しておく必要が あります。	ストリング または 線分
塗潰し図形 (ポリライン)	ストリング または 塗潰し
テキスト マルチテキスト	テキスト 複数行のマルチテキストは 1 行ごとに 変換します。 書式コードが含まれる場合は書式に 応じて変換します。
シェイプ 注) シェイプファイルはあらかじめ シェイプ読み込みでシンボルに変換 しておく必要があります。	シンボル
複合図形 (ブロックデータ) 注) 図形挿入のネストレベルは最高 10 レベルまで処理が可能です。	複合図形 分割変換する場合は各要素に展開して 変換します。
属性 注) テキスト参照	テキスト

DXF/DWG	Advance CAD
ポリライン ライトウエイト・ポリライン 注) 線幅に変換する場合は線種線幅変換テーブルを作成しておく必要があります。また、ポリラインの開始幅と終了幅が同じでなければいけません。	ストリング 外形線を作成 または 線幅に変換
3次元線分	線分 注) X,Yのみ変換します。
3次元面	ストリング 注) X,Yのみ変換します。
寸法線 回転・水平・垂直・平行寸法 角度寸法 弧長寸法 直径寸法 半径寸法	寸法線 長さ寸法 角度寸法 弧長寸法 直径寸法 半径寸法 注) 寸法線に変換できない場合は、複合図形に変換します。
レイヤ	クラスまたはレビジョン 属性変換を参照してください。
楕円	楕円
引出し線	引出し線
スプライン	自由曲線
ハッチング（塗潰しも含む）	ハッチング（塗潰し） パターンが直線1本のハッチング・格子ハッチングをハッチングに変換します。その他は線分に分解して変換します。
マルチライン	ストリング
幾何公差	幾何公差
構築線	線分
その他	変換不可

2.3 線種・線幅変換テーブルファイル

DXF/DWG の線種・線幅および色と Advance CAD の線種・線幅と色の対応を指定します。
ファイルの格納ディレクトリはコンフィグレーションファイルのキーワード #DXF:TABLE# で指定してください。
ファイル名は DXFACAD_LINE で固定です。
ファイルが存在しないときは既定値 (「2.3.6 DXF/DWG → Advance CAD データ変換 線種・線幅変換対応表」) が用いられます。

2.3.1 線幅の割当て方法

DXF/DWG 線幅の Advance CAD 線幅への割当て方法を指定します。

POLWIDTH-SWITCH flag

flag : = 0 : ポリラインの線幅の割当てを無効にします。
 : = 1 : ポリラインの線幅の割当てを有効にします。
 注) WIDTH の定義が必要です。

COLWIDTH-SWITCH flag

flag : = 0 : 色の線幅の割当てを無効にします。
 : = 1 : 色の線幅の割当てを有効にします。
 注) COLOR の定義が必要です。

DXF/DWG 線幅の Advance CAD 線幅への割当て方法を指定します。

WIDWIDTH-SWITCH flag

flag : = 0 : 線幅の線幅の割当てを無効にします。
 : = 1 : 線幅の線幅の割当てを有効にします。
 注) LINE-WIDTH の定義が必要です。

2.3.2 線種の割当て

DXF/DWG 線種名の Advance CAD 線種・線幅への割当てを指定します。

LINE-TYPE Ln = f, w

Ln : DXF/DWG の線種名。
f : Advance CAD の線種番号。
w : Advance CAD の線幅番号。

DXF/DWG の線種名 'Ln' を Advance CAD の線種 'f', 線幅 'w' に割当てます。

2.3.3 線幅の割当て

DXF/DWG 線幅の Advance CAD 線幅への割当てを指定します。

WIDTH	ws, we = w
-------	------------

ws, we : DXF/DWG の線幅を指定します。
w : Advance CAD の線幅番号を指定します。

DXF/DWG の線幅 $ws \leq \text{線幅} < we$ を Advance CAD の線幅 'w' に割当てます。

2.3.4 線幅の割当て (DXF/DWG Ver 2000 から採用された線の太さに対応)

DXF/DWG 線幅の Advance CAD 線幅への割当てを指定します。

LINE-WIDTH	wd = w
------------	--------

wd : DXF/DWG の線幅を指定します。
使用できる線幅は、
0.0, 0.05, 0.09, 0.13, 0.15, 0.18, 0.2, 0.25, 0.3, 0.35, 0.4, 0.5,
0.53, 0.6, 0.7, 0.8, 0.9, 1.0, 1.06, 1.2, 1.4, 1.58, 2.0, 2.11
の 24 種類です。
w : Advance CAD の線幅番号を指定します。

DXF/DWG の線幅 "wd" を Advance CAD の線幅 "w" に割当てます

2.3.5 色コードの線幅割当て

DXF/DWG 色の Advance CAD 線幅への割当てを指定します。

COLOR	c = w
-------	-------

c : DXF/DWG の色コードを指定します。
w : Advance CAD の線幅番号を指定します。

DXF/DWG の色コード 'c' を Advance CAD の線幅 'w' に割当てます。

線幅の変換手順

1. 線種の割当てテーブルより線幅 'w' を決めます。
2. 色の割当てテーブル (COLOR) が定義されている場合、色コードにより 'w' を決めます。
3. データが線幅を持ち線幅の割当てテーブル (LINE-WIDTH) が定義されている場合、線幅により 'w' を決めます。
4. ポリラインが線幅を持ち線幅の割当てテーブル (WIDTH) が定義されている場合、線幅により 'w' を決めます。

2.3.6 DXF/DWG → Advance CAD データ変換 線種・線幅変換対応表

(既定値)

DXF/DWG	Advance CAD
線種	線種
CONTINUOUS	線種コード : 1 線幅コード 1
_____	_____
DASHED	線種コード : 2 線幅コード 1
- - - - -	- - - - -
CENTER	線種コード : 3 線幅コード 1
_____ - - _____	_____ - - _____
PHANTOM	線種コード : 4 線幅コード 1
_____ - - - _____	_____ - - - _____
その他	線種コード : 1 線幅コード 1

2.3.7 DXF/DWG → Advance CAD 線種・線幅変換テーブルファイルの例

```

/ File name : C:\acad\maint\DXFACAD_LINE.COD
/   Date   : 2011/07/16 12:00:00
/
/ 線種の線種変換
/
/ 書式 : LINE-TYPE DXF の線種名 = 線種番号, 線幅
/
/ 注) 設定されていない線種は CONTINUOUS として変換します
/
LINE-TYPE CONTINUOUS = 1,1
LINE-TYPE DASHED     = 2,1
LINE-TYPE CENTER     = 3,1
LINE-TYPE PHANTOM    = 4,1
/
/ 線幅の線幅変換 (Auto CAD 2000 以降)
/
/ 書式 : LINE-WIDTH DXF の線幅 = 線幅番号
/
LINE-WIDTH 0.00 = 1
LINE-WIDTH 0.05 = 1
LINE-WIDTH 0.09 = 1
LINE-WIDTH 0.13 = 1
LINE-WIDTH 0.15 = 2
LINE-WIDTH 0.18 = 2
LINE-WIDTH 0.20 = 2
LINE-WIDTH 0.25 = 3
LINE-WIDTH 0.30 = 3
LINE-WIDTH 0.35 = 4
LINE-WIDTH 0.40 = 4
LINE-WIDTH 0.50 = 5
LINE-WIDTH 0.53 = 5
LINE-WIDTH 0.60 = 5
LINE-WIDTH 0.70 = 5
LINE-WIDTH 0.80 = 5
LINE-WIDTH 0.90 = 5
LINE-WIDTH 1.00 = 5
LINE-WIDTH 1.06 = 5
LINE-WIDTH 1.20 = 5
LINE-WIDTH 1.40 = 5
LINE-WIDTH 1.58 = 5
LINE-WIDTH 2.00 = 5
LINE-WIDTH 2.11 = 5
/
/ ポリラインの幅を線幅に変換
/
/ 書式 : WIDTH 開始幅, 終了幅 = 線幅番号
/
/   開始幅 <= 線幅 < 終了幅 を線幅番号に変換します
/
WIDTH 0.0, 0.14 = 1
WIDTH 0.14, 0.21 = 2
WIDTH 0.21, 0.31 = 3
WIDTH 0.31, 0.41 = 4
WIDTH 0.41, 0.51 = 5
WIDTH 0.51, 999 = 6
/
/ 色を線幅に変換
/
/ 書式 : COLOR DXF の色番号 = 線幅番号

```

```

/
COLOR 1 = 1
COLOR 2 = 1
COLOR 3 = 1
COLOR 4 = 1
COLOR 5 = 1
COLOR 6 = 1
COLOR 7 = 1
COLOR 8 = 1
COLOR 9 = 1
/
/ ポリラインの幅を線幅に変換するスイッチ
/
/ 書式 : POLWIDTH-SWITCH switch
/               switch = 0 : 変換しない
/               1 : 変換する
/
POLWIDTH-SWITCH 0
/
/ 色を線幅に変換するスイッチ
/
/ 書式 : COLWIDTH-SWITCH switch
/               switch = 0 : 変換しない
/               1 : 変換する
/
COLWIDTH-SWITCH 0
/
/ DXF の線幅を線幅に変換するスイッチ
/
/ 書式 : WIDWIDTH-SWITCH switch
/               switch = 0 : 変換しない
/               1 : 変換する
/
WIDWIDTH-SWITCH 0
/
/ Eof

```

2.4 レイヤと色変換テーブルファイル

DXF/DWG のレイヤと色を Advance CAD のクラスまたはレビジョンとの対応を指定します。
 ファイルを格納するディレクトリはコンフィグレーションファイルのキーワード #DXF:TABLE# で指定してください。
 ファイル名は DXFACAD_LAYER で固定です。
 ファイルが存在しないときは、"TABLE SECTION" の "LAYER" に指定されているレイヤ順にクラス 1 から順番に割当てます。

注) 複数のテーブルファイルを作成する場合は、ファイル名 "DXFACAD_LAYER" の後に任意の名前をつけて下さい。コマンドの修飾子『テーブル選択』で選択して使用することができます。

例) DXFACAD_LAYER01.COD

2.4.1 レイヤと色の割当て

DXF/DWG のレイヤを Advance CAD のクラスに、DXF/DWG の色を Advance CAD のレビジョンに割当てるか、DXF/DWG のレイヤを Advance CAD のレビジョンに、DXF/DWG の色を Advance CAD のクラスに割当てるかを指定します。
指定がない場合はレイヤをクラスに色をレビジョンに割当てます。

LAYER-SWITCH	flag
--------------	------

flag	= 0	:	レイヤをクラスに色をレビジョンに割当てます
	= 1	:	レイヤをレビジョンに色をクラスに割当てます

2.4.2 レイヤのクラス割当て

DXF/DWG レイヤの Advance CAD クラスへの割当てを指定します

LAYER	= cls
-------	-------

	:	DXF/DWG のレイヤ名を指定します。 'OTHER' は指定されなかったレイヤすべてを意味します。
cls	:	Advance CAD のクラス番号を指定します。

2.4.3 レイヤのレビジョン割当て

DXF/DWG レイヤの Advance CAD レビジョンへの割当てを指定します。

LAYER-REVISION	= rev
----------------	-------

	:	DXF/DWG のレイヤ名を指定します。 OTHER は、指定されなかったレイヤすべてを意味します。
rev	:	Advance CAD のレビジョン番号を指定します。

2.4.4 色コードのクラス割当て

DXF/DWG 色コードの Advance CAD クラスへの割当てを指定します。

COLOR-CLASS	c = cls
-------------	---------

c	:	DXF/DWG の色コードを指定します。 0 は割当てられた色コード以外のすべての色コードを意味します。
cls	:	Advance CAD のクラス番号を指定します。

2.4.5 色コードのレビジョン割当て

DXF/DWG 色コードの Advance CAD レビジョンへの割当てを指定します。

COLOR-REVISION	c = rev
----------------	---------

c	:	DXF/DWG の色コードを指定します。 0 は割当てられた色コード以外のすべての色コードを意味します。
---	---	---

rev : Advance CAD のレビジョン番号を指定します。

2.4.6 DXF/DWG レイヤ → Advance CAD クラス変換テーブルファイルの例

```

/ File name : C:\acad\maint\DXFACAD_LAYER.COD
/   Date : 2011/07/16 12:00:00
/
/ レイヤの変換先を指定
/
/ 書式 : LAYER-SWITCH flag
/               flag = 0 : レイヤをクラスに変換する
/                       色をレビジョンに変換する
/               1 : レイヤをレビジョンに変換する
/                   色をクラスに変換する
/
LAYER-SWITCH 0
/
/ レイヤのクラス変換
/
/ 書式 : LAYER レイヤ名 = クラス番号
/
/ 設定されているレイヤ以外のレイヤ
LAYER OTHER = 256
/
LAYER 0      = 1
LAYER 1      = 2
LAYER 2      = 3
LAYER 3      = 4
/
/ レイヤのレビジョン変換
/
/ 書式 : LAYER-REVISION レイヤ名 = レビジョン番号
/
/ 設定されているレイヤ以外のレイヤ
LAYER-REVISION OTHER = 256
/
LAYER-REVISION 0      = 1
LAYER-REVISION 1      = 2
LAYER-REVISION 2      = 3
LAYER-REVISION 3      = 4
/
/ 色のレビジョン変換
/
/ 書式 : COLOR-REVISION DXF の色番号 = レビジョン番号
/
/ 注) 色 0 ~ 255 はレビジョン番号 1 で初期化されます。
/
COLOR-REVISION 0 = 1
COLOR-REVISION 1 = 1
COLOR-REVISION 2 = 2
COLOR-REVISION 3 = 3
COLOR-REVISION 4 = 4
COLOR-REVISION 5 = 5
COLOR-REVISION 6 = 6
COLOR-REVISION 7 = 7
COLOR-REVISION 8 = 8
COLOR-REVISION 9 = 9
COLOR-REVISION 10 = 10
.
.

```

```

.
COLOR-REVISION 254 = 254
COLOR-REVISION 255 = 255
/
/
/ 色のクラス変換
/
/ 書式 : COLOR-CLASS DXF の色番号 = クラス番号
/
/ 注) 色 0 ~ 255 はクラス番号 1 で初期化されます。
/
COLOR-CLASS 0 = 1
COLOR-CLASS 1 = 1
COLOR-CLASS 2 = 2
COLOR-CLASS 3 = 3
COLOR-CLASS 4 = 4
COLOR-CLASS 5 = 5
COLOR-CLASS 6 = 6
COLOR-CLASS 7 = 7
COLOR-CLASS 8 = 8
COLOR-CLASS 9 = 9
COLOR-CLASS 10 = 10
.
.
.
COLOR-CLASS 254 = 254
COLOR-CLASS 255 = 255
/
/ Eof

```

2.5 データ変換パラメータファイル

DXF/DWG と Advance CAD のデータ変換のパラメータを指定します。
 ファイルのディレクトリはコンフィグレーションファイルのキーワード #DXF:TABLE# で指定してください。
 ファイル名は DXF 読み込みの場合 DXFACAD_PARAM、DWG 読み込みの場合 DWGACAD_PARAM で固定です。DWG 読み込みで DWGACAD_PARAM がない場合 DXFACAD_PARAM を使用します。
 変換時にいくつかのパラメータを変更する事ができます。DWG 読み込みでパラメータを保存すると DWGACAD_PARAM に保存します。
 [変換 PARM] ボタン (コマンド: DXFPARAM) を押すと変更パラメータ画面がでます。(ダイアログの時は [変換パラメータ] ボタン)

変更パラメータの画面

DXF → Advance CAD 変換パラメータ

漢字コード	シフト J I S	E U C
塗潰し	ストリング	塗潰し
寸法線	寸法線	複合アイテム
寸法線角度	0	
文字角度	角度	2 点
分割アイテム数	3000	
最大アイテム数	32000	
非表示アイテム	変換しない	変換する
ブロックデータ	複合アイテム	シンボル（上書きしない） シンボル（上書きする）
ビューゾーン処理	しない	する
改行処理	しない	する
単精度実数値の丸め	しない	有効桁で丸める 指定桁で丸める
丸めを行う桁	0	
丸めを行う桁（角度）	0	

保存

設定

取消

保存：設定したパラメータを有効にしファイルに保存します。

設定：設定したパラメータを有効にします。<CE> も同じ働きをします。

取消：設定したパラメータを取り消します。

変更パラメータのダイアログ

属性変換指定画面

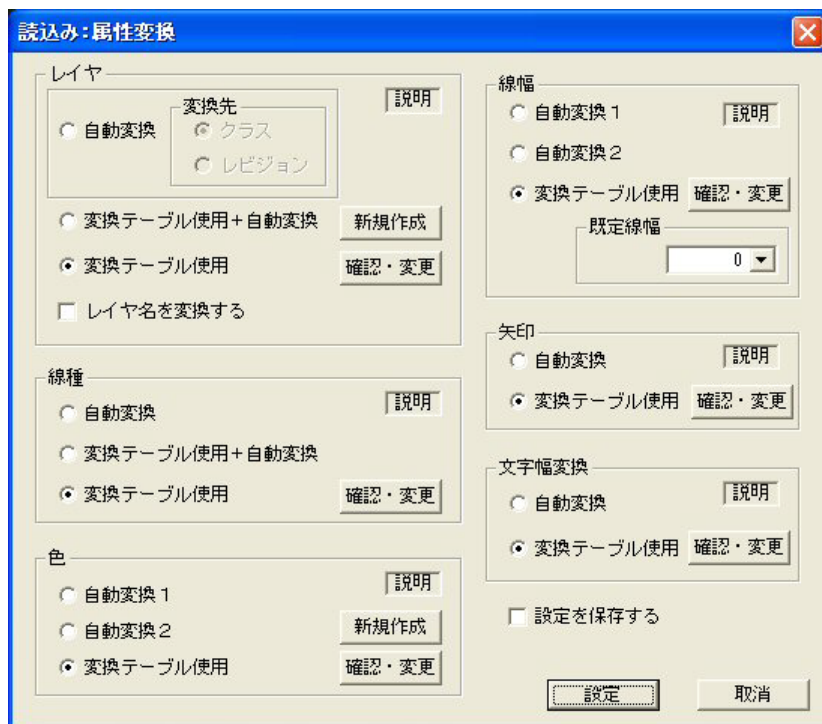
属性変換				
レイヤ変換	自動変換	変換テーブル使用+自動変換	変換テーブル使用	説明
変換先	クラス	レビジョン		
レイヤ名変換	する	しない		
線種変換	自動変換	変換テーブル使用+自動変換	変換テーブル使用	説明
線幅変換	自動変換 1	自動変換 2	変換テーブル使用	説明
既定線幅	0			
色変換	自動変換 1	自動変換 2	変換テーブル使用	説明
矢印変換	自動変換	変換テーブル使用		説明
文字幅変換	自動変換	変換テーブル使用		説明
保存		設定	取消	

保存：設定したパラメータを有効にしファイルに保存します。

設定：設定したパラメータを有効にします。＜CE＞も同じ働きをします。

取消：設定したパラメータを取り消します。

属性変換指定ダイアログ



2.5.1 漢字コード

DXF/DWG で使用している漢字コードを指定します。

KANJI n

- n = 0 : シフト JIS として変換します。
 n = 1 : EUC として変換します。

注) DXF/DWG 2007 以降は、UTF-8 です。
 このパラメータは無視されます。

2.5.2 塗潰し (ポリライン)

ポリラインの塗潰し処理を指定します。

AREAFILL n

- n = 0 : スtringアイテムに変換します。
 n = 1 : 塗潰しアイテムに変換します。

2.5.3 寸法線

寸法線データの処理を指定します。

DIMENSION	n
-----------	---

n = 0 : 寸法線に変換します。
n = 1 : 複合アイテムに変換します。

2.5.4 文字角度

文字角度の処理を指定します。

TEXT_ANGLE	n
------------	---

n = 0 : 文字角度は角度を使用します。
n = 1 : 文字角度は 2 点 P0 - P1 の角度を使用します。

2.5.5 分割アイテム数の指定（モデル）

変換アイテム数がモデルの最大アイテム数を超える場合分割変換を行います。その場合の分割アイテム数を指定します。

SUBMODEL_ITEM	n
---------------	---

n : 分割変換するときのサブモデルの最大アイテム数を指定します。
このアイテム数でサブモデルを作成し作成したサブモデルを配置します。
複合図形は要素展開して変換します。
(既定値 : 3000)

注) このアイテム数をあまり大きくするとサブモデル配置できなくなる場合があります。

2.5.6 複合図形分割アイテム数の指定

複合図形の分割アイテム数を指定します。

COMP_ITEM	n
-----------	---

n : 複合図形を分割するアイテム数を指定します。
(既定値 : SUBMODEL_ITEM の値)

2.5.7 最大アイテム数の指定

最大のアイテム数を指定します。

MODEL_ITEM	n
------------	---

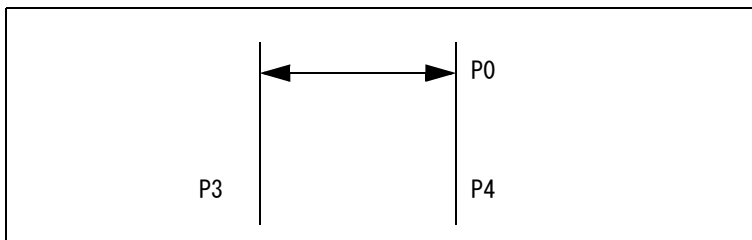
- n : モデルの最大アイテム数を指定します。(100 ~ max)。(既定値 : max)
 変換後のアイテム数がこのアイテム数を越えるとき分割変換を行います。
 max : コンフィグレーションファイル ACAD.SET で設定された値。

2.5.8 寸法線角度

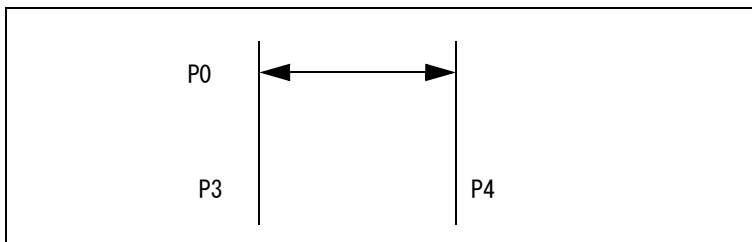
長さ寸法線の角度の決定方法を指定します。

DIM_ANGLE n

- n = 0 : データ内に定義されている角度。(デフォルト)
 n = 1 : P0 と P4 で角度を求めます。



- n = 2 : P0 と P3 で角度を求めます。



2.5.9 非表示アイテム変換の指定

NOSHOW_ITEM n

- n = 0 : 非表示アイテムは変換しません。
 n = 1 : 非表示アイテムを表示アイテムとして変換します。(既定値)

2.5.10 複合図形及び外部参照図形変換の指定

BLOCKTOSYM n

- n = 0 : 複合アイテムに変換します。(既定値)
 n = 1 : シンボルに変換します。

2.5.11 シンボルの上書き指定

複合図形及び外部参照図形変換の指定でシンボルに変換するを選択した場合既存シンボルがある場合の処理方法を指定します。

SYMOVERWT	n
-----------	---

n = 0 : 上書きしない。
n = 1 : 上書きする。

2.5.12 ビューゾーン処理

データにレイアウト情報がある場合に各ビューをピクチャに変換します。
その時データをレイアウトのビューゾーンで簡易クリップ処理を行います。

LAYOUT_BOX	n
------------	---

n = 0 : ビューゾーンで簡易クリップ処理を行いません。(既定値)
n = 1 : ビューゾーンで簡易クリップ処理を行います。

2.5.13 改行処理

マルチテキストの段落での改行処理を指定します。

MTEXT_WORDWRAP	flag
----------------	------

flag = 0 : 改行処理をしない。(既定値)
flag = 1 : 改行処理をする。

注) 文字幅の変換に自動変換が指定されている場合は、
改行処理をするが既定値となります。

2.5.14 単精度実数値の丸め

実数データの丸め処理を行います。

ROUND_FLOAT	n
-------------	---

n = 0 : 実数データの丸め処理は行いません。(既定値)
n = 1 : 単精度実数データの有効桁で丸めを行います。
n = 2 : 単精度実数データの指定した小数点以下桁数で丸めを行います。

2.5.15 丸めを行う桁

丸めを行う小数点以下桁数を指定します。

実数データの丸め処理で 2 を指定した場合に指定します。

ROUND_FIGURE n

n : 0 ～ 7 の値を指定します。
 0 を指定すると丸め処理は行いません。

2.5.16 丸めを行う桁（角度）

角度の丸めを行う小数点以下桁数を指定します。
実数データの丸め処理で 2 を指定した場合に指定します。

ROUND_ANGLE n

n : 0 ～ 7 の値を指定します。
 0 を指定すると丸め処理は行いません。

2.5.17 スプラインの分割数の指定

スプラインを変換する場合の分割数を指定します。

SPLINE n

n = 0 : 分割変換はしません
 = 1 ～ 30 : 分割数を指定します。（既定値：4）

2.5.18 スプラインの変換方法の指定

制御点が 2 点のみのスプラインの変換方法を指定します。

SPLINE_LINE flag

flag = 0 : 自由曲線に変換します。（既定値）
 = 1 : 直線に変換します。

2.5.19 レイヤ属性の変換方法指定

レイヤ属性の変換方法を指定します。

LAYER_CONVERT flag

flag = 0 : 自動変換。
 自動変換します。
 レイヤ 0 を 1 にその他のレイヤは現れた順に 2 から順に割り当てます。
 変換先はクラスまたはレビジョンを選択します。
 = 1 : 変換テーブル使用 + 自動変換。
 変換テーブルの設定にしたがって変換します。

- 変換テーブルで設定されていないレイヤは変換テーブルで設定されている最大番号の次から順に割り当てます。
- = 2 : 変換テーブル使用。(既定値)
変換テーブルの設定にしたがって変換します。

レイヤの変換先を指定します。

LAYER_TO flag

- flag
- = 0 : クラスに変換します。(既定値)
 - = 1 : レビジョンに変換します。

注) LAYER_CONVERT 0 (自動変換) の場合に指定します。
変換テーブルを使用する場合は変換テーブルで指定します。

レイヤ名の変換を指定します。

LNAME_CONVERT flag

- flag
- = 0 : レイヤ名は変換しません。
 - = 1 : レイヤ名をクラス (レビジョン) 命に変換します。

2.5.20 線種属性の変換方法指定

線種属性の変換方法を指定します。

LTYPE_CONVERT flag

- flag
- = 0 : 自動変換。
自動変換します。
CONTINUOUS (実線) を 1 にその他の線種は現れた順に 2 から順に割り当てます。
 - = 1 : 変換テーブル使用+自動変換。
変換テーブルの設定にしたがって変換します。
変換テーブルで設定されていない線種は変換テーブルで設定されている最大番号の次から順に割り当てます。
 - = 2 : 変換テーブル使用。(既定値)
変換テーブルの設定にしたがって変換します。

備考) 自動変換で変換した場合の線種の確認

- 1) コマンド『線種設定』(DXF/LTYPE) で線種が確認できます。
- 2) コマンド『線種設定』(DXF/LTYPE) の線種表示で「縮尺反映」を選択すると画面上で線種の確認ができます。

2.5.21 線幅属性の変換方法指定

線幅属性の変換方法を指定します。

LWIDTH_CONVERT flag

- flag
- = 0 : 自動変換 1。
線幅 0 を 1 にその他の線幅は使用されている線幅の小さい順に 2 から順に割り当てます。
ポリラインの幅を線幅に変換します。

- = 1 : 自動変換 2。
線幅 0 を 1 にその他の線幅は使用されている線幅の小さい順に 2 から順に割り当てます。
ポリラインの幅は線幅に変換しません。
- = 2 : 変換テーブル使用。(既定値)
変換テーブルの設定にしたがって変換します。

備考) 自動変換で変換した場合の線幅の確認

- 1) コマンド『線幅設定』(DXF/LWIDTH) で線幅が確認できます。
- 2) コマンド『線幅設定』(DXF/LWIDTH) の線幅表示で〔実線幅で表示〕を選択すると画面上で線幅の確認ができます。
- 3) コマンド『プレビュー』(SXF/PREVIEW) 及び『印刷』(SXF/PRINT) でプレビュー及び印刷が行えます。『プレビュー』・『印刷』の前に図面配置をする必要があります。『プレビュー』・『印刷』では、〔▼設定ファイル〕に(モデル値を使用)を設定します。

注) 『プレビュー』・『印刷』は Windows に登録されているプリンタに対して行えます。

2.5.22 既定義線幅の指定

線種属性の変換方法を指定します。

```
DEFAULT_LWIDTH width
```

width
線幅 × 100 を指定します。
線幅が既定義線幅に設定されている図形の線幅を指定します。

2.5.23 色属性の変換方法指定

色属性の変換方法を指定します。

```
COLOR_CONVERT flag
```

flag

- = 0 : 自動変換 1。
カラーテーブルを DXF のカラーテーブルに設定してから変換します。
DXF の色番号とレビジョン(クラス)番号は 1 対 1 対応になります。
- = 1 : 自動変換 2。
現在のカラーテーブルの一番近い色に変換します。
- = 2 : 変換テーブル使用。(既定値)
変換テーブルの設定にしたがって変換します。

2.5.24 寸法矢印の変換方法指定

寸法矢印の変換方法を指定します。

```
ARROW_CONVERT flag
```

flag

- = 0 : 自動変換。
DXF の矢印をマークに自動変換します。
- = 2 : 変換テーブル使用。
変換テーブルの設定にしたがって変換します。(既定値)

注) 自動変換の既定値は次のとおりです。

矢印名	マーク番号	角度	大きさ	説明
LINE	1	0	300	直線 2 本
SOLID	3	0	300	塗潰し矢印

矢印の大きさは、大きさが確定できない場合に使用します。

2.5.25 文字幅の変換方法指定

文字幅の変換方法を指定します。

TEXT_CONVERT flag

flag = 0 : 自動変換。
文字列の文字幅を自動変換します。
ファイル DXFFONTTABLE.DAT が必要です。

= 2 : 変換テーブル使用。
変換テーブルの設定にしたがって変換します。(既定値)

2.5.26 DXF /DWG → Advance CAD 変換パラメータファイルの例

```

/ File Name : C:\acad\maint\DXFACAD_PARAM.COD
/ Date : 2011/07/16 12:00:00
/
KANJI                      0
AREAFILL                   0
DIMENSION                  0
DIM_ANGLE                  0
SUBMODEL_ITEM              10000
MODEL_ITEM                 262143
COMP_ITEM                  10000
NOSHOW_ITEM                0
BLOCKTOSYM                0
SYMOVERWT                 0
/
LAYOUT_BOX                 1

```

```

ROUND_FLOAT          0
ROUND_FIGURE         0
ROUND_ANGLE          0
/
SPLINE               0
/
MTEXT_WORDWRAP      0
/
Layer_To             0
Layer_Convert        0
LName_Convert        1
LType_Convert        0
LWidth_Convert       0
Default_LWidth       0
Color_Convert        0
Arrow_Convert        0
Text_Convert         0
/
/ Eof

```

2.6 寸法線矢印変換テーブル

DXF/DWG と Advance CAD の寸法線矢印の変換を指定します。

DXF/DWG の寸法線矢印にブロックデータを使用している場合に指定してください。

ファイルのディレクトリは ACAD.SET のキーワード #DXF:TABLE# で指定してください。

ファイル名は DXFACAD_ARROW で固定です。

2.6.1 矢印の割当て

```
ARROW block_name = mark, angle, size
```

block name : DXF/DWG の矢印のブロックデータ名を指定します。
 'OTHER' はブロック名にないすべてを意味します。
 mark : Advance CAD のマーク番号を指定します。
 angle : ブロックデータとマーク番号の角度差（度）を指定します。
 ブロックデータの矢印が > で対応するマークが < の場合、角度は 180 になる。
 size : マークの大きさ × 100 を指定します。

DXF/DWG のブロックデータ名 'block' の矢印を Advance CAD のマーク番号 'mark', 角度 'angle', 大きさ 'size' に割当てます。

2.6.2 DXF → Advance CAD 寸法線矢印変換テーブルファイルの例

```

/ File name : C:\¥acad¥maint¥DXFACAD_ARROW.COD
/   Date : 2011/07/16 12:00:00
/
/ Convert Arrow Head to Mark No.
/
/ 書式 : ARROW 矢印名 = マーク番号, 角度, サイズ (mm x 100)
/
/ 設定されている矢印以外の矢印

```

```

ARROW OTHER      =    1, 180, 300
/
/ 矢印が図形の場合
ARROW LINE        =    1,   0, 300
ARROW CIRCLE      =    4,   0, 300
ARROW SLASH       =    5, 180, 300
ARROW BOX         =   17, 180, 300
ARROW INTEGRAL    =    6, 180, 300
ARROW DOT         =    4, 180, 300
/
/ 既定の矢印
ARROW SOLID       =    3,   0, 300
ARROW _Open30     =    1, 180, 300
ARROW _ClosedBlank =    7, 180, 300
ARROW _Closed     =    2, 180, 300
ARROW _Open       =    1, 180, 300
ARROW _Open90     =  256, 180, 300
ARROW _BoxBlank   =   17, 180, 300
ARROW _BoxFilled  =   18, 180, 300
ARROW _Dot        =  277, 180, 300
ARROW _ArchTick   =  284, 180, 300
ARROW _Oblique    =    5, 180, 300
ARROW _Origin     =   15, 180, 300
ARROW _Origin2    =   16, 180, 300
ARROW _DotSmall   =    4, 180, 300
ARROW _DotBlank   =   51, 180, 300
ARROW _Small      =  283, 180, 300
ARROW _DatumBlank =    8, 180, 300
ARROW _DatumFilled =    9, 180, 300
ARROW _Integral   =    6, 180, 300
ARROW _None       =  270, 180, 300
/
/ Eof

```

2.7 文字間隔変換テーブルファイル

2.7.1 字体の文字間隔

字体の文字間隔を指定します。

```
STYLE = style, spacing [, flag] [, spacing2] [, hspace] [, vspace] [,,wid2] [,wid1]
```

style	: 字体名を指定します。
spacing	: 文字間隔を指定します。(文字高さに対する比率)
flag	: 縦書きの場合 "2" 指定します。
spacing2	: 文字間隔を指定します。(文字高さに対する比率) 1つの字体名で全角文字と半角文字を扱っているとき半角文字の間隔を指定します。省略時は spacing の値を使用します。
hspace	: 文字間隔の間隔部分を指定します。(文字高さに対する比率) 省略時は 0.2。
vspace	: 行間隔を指定します。(文字高さに対する比率) 省略時は 1.4。
wid2	: 2バイト文字の文字幅を指定します。(文字高さに対する比率) 省略時は 0.95。
wid1	: 1バイト文字の文字幅を指定します。(文字高さに対する比率) 省略時は 0.75。

注) DXF ストロークフォント文字幅テーブル (DXFFONTTABLE.DAT) がある場合

このパラメータは無視されます。

2.7.2 注記の全角から半角変換

注記の全角から半角変換を指定します。

2T01 = flag

flag : 注記を全角から半角に変換させるスイッチ。
ON = 注記の全角→半角変換をします。
OFF = 注記の全角→半角変換をしません。(既定値)

2.7.3 寸法値の全角から半角変換

寸法値の全角から半角変換を指定します。

DIM_2T01 = flag

flag : 寸法値を全角から半角に変換させるスイッチ。
ON = 寸法値の全角→半角変換をします。
OFF = 寸法値の全角→半角変換をしません。(既定値)

ファイルのディレクトリは、ACAD.SET のキーワード #DXF:TABLE# で指定してください。
ファイル名は、DXFACAD_STYLE で固定です。
ファイルが存在しない場合は既定値 (下表) が使用されます。
既定値は英数フォントに monotxt (Auto CAD 固定幅フォント) を想定しています。

文字間隔既定値

字体名	文字間隔	縦書きフラグ
STANDARD	1.00	0
BIGFONT	1.1875	0
TSTANDARD	1.1875	2
TBIGFONT	1.1875	2

2.7.4 DXF/DWG → Advance CAD 文字間隔変換テーブルファイルの例

```
/ File name : C:\acad\maint\DXFACAD_STYLE.COD
/      Date : 2011/07/16 12:00:00
/
/ Convert Text Font Style to Text Font No.
/
STYLE = STANDARD, 1.1875, 0, 1, 0.2, 1.4, 1, 1, 0.95, 0.75
STYLE = BIGFONT, 1.1875, 0, 1, 0.2, 1.4, 1, 1, 0.95, 0.75
STYLE = TSTANDARD, 1.1875, 2, 1, 0.2, 1.4, 1, 1, 0.95, 0.75
STYLE = TBIGFONT, 1.1875, 2, 1, 0.2, 1.4, 1, 1, 0.95, 0.75
/
```

```

2T01      = OFF
DIM_2T01  = ON
/
/ Eof

```

2.8 外字変換テーブルファイル

DXF/DWG から Advance CAD への外字の変換を定義します。ファイルのディレクトリは、コンフィグレーションのキーワード #DXF:TABLE# で定義してください。

ファイル名は、DXFACAD_KANJI で固定です。

ファイル名が存在しない場合は通常の変換が行われます。

2.8.1 変換テーブルの説明

変換テーブルは以下の形式で記述します。

```

注釈          : 1 カラム目が / で始まる行。
コード定義行   : 1 カラム目が / 以外で始まる行。

```

コード定義

コード定義は 7 カラム目から 2 バイトで変換後の文字を指定します。

1 行に 16 文字分まで指定できます。

1 バイト文字に変換する場合は 1 バイト目を空白にして 2 バイト目に変換後の 1 バイト文字を指定してください。

指定できる外字コードは 9 区から 14 区までです。

```

1 行目には 9 区の 0 から 15 点の変換文字を指定します。
2 行目には 9 区の 16 から 31 点の変換文字を指定します。
3 行目には 9 区の 32 から 47 点の変換文字を指定します。
4 行目には 9 区の 48 から 63 点の変換文字を指定します。
5 行目には 9 区の 64 から 79 点の変換文字を指定します。
6 行目には 9 区の 80 から 95 点の変換文字を指定します。
7 行目には 10 区の 0 から 15 点の変換文字を指定します。
      :
      :
      :
36 行目は 14 区の 85 から 95 点の変換文字を指定します。

```

コード定義行は全部で 36 行で省略はできません。

2.8.2 DXF/DWG → Advance CAD 外字変換テーブルファイルの例

```

/   File Name : DXFACAD_KANJI.COD
/
/   Gaiji Conversion Table
/
/   Format : 6X,16A2
/
/   0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 A B C D E F
0900  ! " # $ % & ' ( ) * + , - . /
0910  0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 : ; < = > ?
0920  @ A B C D E F G H I J K L M N O
0930  P Q R S T U V W X Y Z [ \ ] ^ _
0940  ` a b c d e f g h i j k l m n o

```

/

第 3 章 DXF/DWG 書込み

Advance CAD の図面データを DXF/DWG フォーマットファイルに出力します。

DXF ファイルを格納するディレクトリとファイルの拡張子はコンフィグレーションファイル (ACAD.SET) のキーワード #DXF# で指定します。

DWG ファイルを格納するディレクトリとファイルの拡張子はコンフィグレーションファイル (ACAD.SET) のキーワード #DWG# で指定します。

DWG ファイルの書込みを行うには、コンフィグレーションファイル (ACAD.SET) のキーワード #ACAD:EXE# で指定されたディレクトリに変換の為の実行モジュール (DwgIO.exe) が必要です。

3.1 DXF/DWG 書込み

3.1.1 図面配置されたピクチャの図面データを DXF/DWG ファイルに書込む

- (1) 主メニューの〔データ変換 オプション〕をクリックし、コマンドメニューの〔DXF/DWG 書込み〕をクリックします。
- (2) プロンプト領域に書込む DXF/DWG ファイル名を入力します。
- (3) 〔ページ番号〕をクリックしてプロンプト領域に 図面配置したページ番号を入力してください。
- (4) “<CE> で実行 ” メッセージが表示され後、リターンキーを押して DXF ファイルを書込みます。

3.1.2 現ピクチャの図面データを DXF/DWG ファイルに書込む

- (1) 主メニューの〔データ変換 オプション〕をクリックし、コマンドメニューの〔DXF/DWG 書込み〕をクリックします。
- (2) プロンプト領域に書込む DXF ファイル名を入力します。
- (3) 〔現ピクチャ〕をクリックしてプロンプト領域に “<CE> で実行 ” メッセージが表示されましたら、リターンキーを押して DXF/DWG ファイルを書込みます。

3.1.3 ピクチャ番号を指定して図面データを DXF/DWG ファイルに書込む

- (1) 主メニューの〔データ変換 オプション〕をクリックし、コマンドメニューの〔DXF/DWG 書込み〕をクリックします。
- (2) プロンプト領域に書込む DXF/DWG ファイル名を入力します。
- (3) 〔ピクチャ番号〕をクリックしてプロンプト領域に変換したいピクチャ番号を入力してください。

- (4) “<CE> で実行” メッセージが表示され後、リターンキーを押して DXF/DWG ファイルを書込みます。

3.1.4 フロッピーディスクへ DXF/DWG ファイルの書込を行う

- (1) フロッピーディスクをフロッピードライブにセットし、主メニューの〔データ変換 オプション〕をクリックし、コマンドメニューの〔DXF/DWG 書込み〕をクリックします。
- (2) 〔フロッピー〕を押します。

3.1.5 クラス→レイヤ変換テーブルファイルを設定する

Advance CAD のクラスと DXF/DWG のレイヤとの対応を定義するファイルの設定を行います。既定値は "ACADDXF_LAYER"。

- (1) 主メニューの〔データ変換 オプション〕をクリックし、コマンドメニューの〔DXF/DWG 書込み〕をクリックします。
- (2) 修飾子メニューの〔テーブル選択〕ボタンをクリックして、変換テーブルファイル名をプロンプト領域に入力します。

注意：

テーブルファイル名は "ACADDXF_LAYER" の後に任意の名前をつけて下さい。
1 度選択すると次に変更するまで有効です。

3.1.6 変換パラメータを設定する

Advance CAD から DXF/DWG への変換パラメータファイル (ACADDXF_PARAM.COD) の設定変更及び保存が行えます。

- (1) 主メニューの〔データ変換 オプション〕をクリックし、コマンドメニューの〔DXF/DWG 書込み〕をクリックします。
- (2) 修飾子メニューの〔変換 PARM〕ボタンをクリックして、描画区域がパラメータ設定画面にかかります。変更する項目をピックして変更してください。

3.1.7 属性（レイヤ、線種、線幅、色）変換方法を指定する

Advance CAD から DXF/DWG への属性変換方法の設定、変更及び保存が行えます。
保存ファイル名は ACADDXF_PARAM.COD です。

- (1) 主メニューの〔データ変換 オプション〕をクリックし、コマンドメニューの〔DXF/DWG 書込み〕をクリックします。
- (2) 修飾子メニューの〔属性変換〕ボタンをクリックして、描画区域が属性変換設定画面にかかります。変更する項目をピックして変更してください。
- (3)

3.1.8 塗潰しの出力方式設定を指定する

Advance CAD から DXF/DWG 書込み時に、塗潰しの出力方式を指定が行えます。
保存ファイル名は ACADDXF_PARAM.COD です。

塗潰しの変換方法

AFL_SOLID n

n = 0: HATCHING の値によって変化します。(既定値)

HATCHING 1: 境界線のみ出力します。

HATCHING 0: 境界線を出力します。

R14 以降はソリッド又はハッチングに変換します。

n = 1: 境界線のみ出力します。

n = 2: 境界線を出力します。

R14 以降はソリッド又はハッチングに変換します。

n = 3: 境界線を出力します。

R14 以降はハッチングに変換します。

3.1.9 自由曲線出力方式設定を指定する

Advance CAD から DXF/DWG 書込み時に、直線状の自由曲線をスプラインにするか、ポリラインにするか選択
保存ファイル名は ACADDXF_PARAM.COD です。

自由曲線の変換方法

SPLINE n

n = 0: 直線近似してポリラインで出力します。

n = 1: 直線状はポリラインで、それ以外はスプラインで出力します。(既定値)

n = 2: 全てスプラインで出力します。

3.1.10 コマンド構文

【メニュー】

〔データ変換2〕→〔DXF/DWG 書込〕

【構文】

```
DXF/WRITE
または [FLOPPY] file
DWG/WRITE
      [spc_md]
      { PAGE s
        CURPIC
        OUTPIC s } [SELECT name]
```

[DXFPARAM] [DXFATTR] <CE> [EJECT]

注) spc_md は、一括変換を参照。

FLOPPY : フロッピーディスクへ書込みを行います。
file : DXF 出力ファイル名を入力します。
PAGE S : 図面配置のページ番号 s に配置されているピクチャの図面データを出力します。
図面枠はピクチャ 257 として変換します。

	“*” を入力すると図面配置ページ一覧が表示され出力するページを一覧から選択できます。
CURPIC	: 現ピクチャの図面データを出力します。 図面データは原寸で変換します。
OUTPIC s	: ピクチャ番号 s の図面データを出力します。 図面データは原寸で変換します。 “*” を入力するとピクチャー一覧図が表示され出力するピクチャを一覧から選択できます。
SELECT name	: クラス→レイヤ変換テーブルファイルを選択します。
DXFPARAM	: 変換する時のパラメータを指定します。 3.5 変換パラメータファイルを参照してください。
DXFATTR	: 属性（レイヤ、線種、線幅、色、矢印）の変換方法を指定します。 3.5 変換パラメータファイルを参照してください。
EJECT	: フロッピーディスクの使用を終了します。

3.1.11 一括変換

現モデルの指示したピクチャ又はページを一括で DXF/DWG ファイルに変換します。
既に同じ名前のファイルが存在する場合は上書き保存します。一覧表示時にファイル名の左に * が表示されます。（ダイアログでは○が表示されます。）

- (1) 主メニューの「データ変換 オプション」をクリックし、コマンドメニューの「DXF/DWG 書込み」をクリックします。
- (2) 修飾子メニューの「一括変換」ボタンをクリックして、プロンプト領域に “*” を入力します。描画区域に一覧表が表示されますので該当する項目をピックして選択してください。選択終了後変換します。

3.1.12 コマンド構文

【メニュー】

〔データ変換 2〕 → 〔DXF/DWG 書込〕

【構文】

SPC_MDL	$\left\{ \begin{array}{l} \text{DXFFILE} \\ \text{FLOPPY} \end{array} \right\}$	$\left\{ \begin{array}{l} \text{OUTPIC} \\ \text{PAGE} \end{array} \right\}$	[FNM fname]	$\left\{ \begin{array}{l} \text{SELALL} \\ \text{pick [filename]} \\ \text{pick} \end{array} \right\}$
---------	---	--	---------------	--

[CANCEL] <CE> [EJECT]

DXFFILE	: ハードディスクに DXF/DWG ファイルを出力します。
FLOPPY	: フロッピーディスクに DXF/DWG ファイルを出力します。
OUTPIC	: ピクチャ番号を指示して一括変換します。
PAGE	: 図面配置のページ番号を指示して一括変換をします。
FNM fname	: 出力ファイル名の “TEMP” の部分を fname で指定された名前に変更します。
SELALL	: 全てのピクチャ（ページ）を選択します。
pick	: 出力するピクチャ（ページ）を選択します。 既に選択されているピクチャ（ページ）をピックすると選択の取消しになります。

filename : DXF/DWG ファイル名を入力します。
注) 最後に "*" を付けると全ファイル名を変更します。
TEMP001, TEMP002 → ABC* → ABC001, ABC002

CANCEL : 選択を全て取消します。

<CE> : 変換処理を開始します。

3.2 変換対応表

Advance CAD → DXF データ変換 図形要素対応表

Advance CAD	DXF/DWG
点	点
直線	直線
円	円
円弧	円弧
楕円	ポリライン または 楕円 (R13J 以降)
自由曲線	スプライン GX-3 の場合はポリライン
テキスト	テキスト または マルチテキスト
マーク	ブロックデータ または 図形要素に展開
風船	図形要素に展開
引出し注釈	図形要素に展開
幾何公差	ブロックデータ または 図形要素に展開
切断線	図形要素に展開
ハッチング	ブロックデータ または 図形要素に展開 R14 以降は 1 部ハッチングに変換

(続き)

Advance CAD	DXF/DWG
塗潰し	ストリング（枠のみ変換） R14 以降はハッチング（塗潰しに変換）
寸法線 水平・垂直・平行寸法 角度寸法 直径寸法 半径寸法 弧長寸法 その他	寸法線 または 図形要素に展開 水平・垂直・平行寸法 角度寸法 直径寸法 半径寸法 図形要素に展開 2007 以降は円弧長寸法に変換 図形要素に展開
複合アイテム	ブロックデータ または 図形要素に展開
シンボル	ブロックデータ または 図形要素に展開
サブモデル	ブロックデータ または 図形要素に展開

3.3 線種・線幅変換テーブル

Advance CAD の線種・線幅と DXF/DWG の線種・線幅及び色との対応を指定します。
 ファイルのディレクトリはコンフィグレーションファイルのキーワード #DXF:TABLE# で定義してください。
 ファイル名は ACADDXF_LINE で固定です。
 ファイルが存在しないときは既定値 (「3.3.6 デフォルト線種・線幅変換対応表」) が用いられます。

3.3.1 線幅の割当て

Advance CAD の線幅を DXF/DWG に合わせた線幅に割当てます。

WIDTH-TYPE n

n = 0	: ポリラインに変換します。(既定値)
1	: AutoCAD 2000 から採用された線幅に割当てます。

3.3.2 線種・線幅の割当て

LINE-FONT f, w = Ln, W, C

f	: Advance CAD の線種番号を指定します。
w	: Advance CAD の線幅番号を指定します。
Ln	: DXF/DWG の線種名を指定します。
W	: DXF/DWG の線幅を指定します。 線幅が > 0 のとき、直線・円・円弧・ストリング・自由曲線はポリラインに変換します。
C	: DXF/DWG の色コード。

Advance CAD の線種 'f'、線幅 'w' を DXF/DWG の線種名 'Ln'、線幅 'W'、色コード 'C' に割当てます。

・ 線種の割当て

LINE-FONT1 f = Ln

f	: Advance CAD の線種番号を指定します。
Ln	: DXF/DWG の線種名を指定します。

Advance CAD の線種 'f' を DXF/DWG の線種名 'Ln' に割当てます。

・ 線幅の割当て

LINE-FONT2 w = W, C

w	: Advance CAD の線幅番号を指定します。
---	----------------------------

- W : DXF/DWG の線幅を指定します。
線幅が > 0 のとき、直線・円・円弧・ストリング・自由曲線はポリラインに変換します。
- C : DXF/DWG の色コードを指定します。

Advance CAD の線幅 'w' を DXF/DWG の線幅 'W', 色コード 'C' に割当てます。

注) 線種・線幅の割当ては、LINE-FOUT または LINE-FONT1 と LINE-FONT2 で行ってください。
なるべく LINE-FONT1 及び LINE-FONT2 をお使いください。

3.3.3 線幅の割当て

LINE-WIDTH iwet = width

- iwet : Advance CAD の線幅番号を指定します。
- width : DXF/DWG の線幅を指定します。
使用できる線幅は、
0.0, 0.05, 0.09, 0.13, 0.15, 0.18, 0.2, 0.25,
0.3, 0.35, 0.4, 0.5, 0.53, 0.6, 0.7, 0.8, 0.9
1.0, 1.06, 1.2, 1.4, 1.58, 2.0, 2.11
の 24 種類です。

Advance CAD の線幅 'iwet' を DXF/DWG の線幅 'width' に割当てます。

3.3.4 線種ピッチの指定

PITCH-Ln = p1, p2, [p3, [p4, [.....]]]
--

- Ln : DXF/DWG の線種名を指定します。
- pn : 作図ピッチを指定します。
正の値 : 作図する長さを指定します。
負の値 : 作図しない長さを指定します。

線種名 'Ln' の作図ピッチを指定します。

3.3.5 線種の注釈の指定

COMMENT-Ln = cmt

- Ln : DXF の線種名を指定します。
- cmt : 注釈を指定します。

線種名 'Ln' の注釈を指定します。

3.3.6 デフォルト線種・線幅変換対応表

Advance CAD → DXF/DWG 線種・線幅変換対応表

Advance CAD		DXF/DWG		
線種	線幅	線種	線幅	色
1	1-16	CONTINUOUS	0	0
2	1-16	DASHED	0	0
3	1-16	CENTER	0	0
4	1-16	PHANTOM	0	0
5	1-16	CONTINUOUS	0	0
6	1-16	CONTINUOUS	0	0
7	1-16	CONTINUOUS	0	0
8	1-16	CONTINUOUS	0	0
9	1-16	CONTINUOUS	0	0
10	1-16	CONTINUOUS	0	0
11	1-16	CONTINUOUS	0	0
12	1-16	CONTINUOUS	0	0
13	1-16	CONTINUOUS	0	0
14	1-16	CONTINUOUS	0	0
15	1-16	CONTINUOUS	0	0

3.3.7 Advance CAD → DXF/DWG 線種・線幅変換テーブルファイルの例

```

/ File name : C:\acad\maint\ACADDXF_LINE.COD
/   Date   : 2011/07/16 12:00:00
/
/ Line Width Type
/
/ 線幅の変換方法
/
/ 書式 : WIDTH-TYPE flag
/           flag = 0 : 線幅を色及びポリラインの幅に変換する
/           = 1 : 線幅を線幅に変換する (Auto CAD 200 以降)
/
/ WIDTH-TYPE 0
/
/ 線幅の線幅変換 (Auto CAD 200 以降)
/
/ 書式 : LINE-WIDTH 線幅番号 = DXF の線幅
/
/ 注) DXF の線幅は次の線幅を指定できます

```

```

/      0.0  0.05  0.09  0.13  0.15  0.18  0.20  0.25
/      0.30  0.35  0.40  0.50  0.53  0.60  0.70  0.80
/      0.90  1.00  1.06  1.20  1.40  1.58  2.00  2.11
/

```

```

LINE-WIDTH  0 = 0.00
LINE-WIDTH  1 = 0.00
LINE-WIDTH  2 = 0.00
LINE-WIDTH  3 = 0.00
LINE-WIDTH  4 = 0.00
LINE-WIDTH  5 = 0.00
LINE-WIDTH  6 = 0.00
LINE-WIDTH  7 = 0.00
LINE-WIDTH  8 = 0.00
LINE-WIDTH  9 = 0.00
LINE-WIDTH 10 = 0.00
LINE-WIDTH 11 = 0.00
LINE-WIDTH 12 = 0.00
LINE-WIDTH 13 = 0.00
LINE-WIDTH 14 = 0.00
LINE-WIDTH 15 = 0.00
LINE-WIDTH 16 = 0.00
/

```

/ 線種の線種変換

/ 書式 : LINE-FONT1 線種番号 = 線種名

```

LINE-FONT1  1 = Continuous
LINE-FONT1  2 = Dashed
LINE-FONT1  3 = Center
LINE-FONT1  4 = Phantom
/

```

/ 線幅の色及びポリラインの幅変換

/ 書式 : LINE-FONT2 線種番号 = ポリラインの幅, 色

```

/
LINE-FONT2  1 = 0, 0
LINE-FONT2  2 = 0, 0
LINE-FONT2  3 = 0, 0
LINE-FONT2  4 = 0, 0
LINE-FONT2  5 = 0, 0
LINE-FONT2  6 = 0, 0
LINE-FONT2  7 = 0, 0
LINE-FONT2  8 = 0, 0
LINE-FONT2  9 = 0, 0
LINE-FONT2 10 = 0, 0
LINE-FONT2 11 = 0, 0
LINE-FONT2 12 = 0, 0
LINE-FONT2 13 = 0, 0
LINE-FONT2 14 = 0, 0
LINE-FONT2 15 = 0, 0
LINE-FONT2 16 = 0, 0
/

```

/ 線種ピッチ

/ 書式 : PITCH- 線種名 = 描画 1, 空白 1, 描画 2, 空白 2, 描画 3, 空白 3, 描画 4, 空白 4

```

/
/  注) 描画と空白は必ず対で指定します
/      空白はマイナスの値で指定します
/
PITCH-DASHED    =  2, -1
PITCH-CENTER    =  3, -1,  1, -1
PITCH-PHANTOM   =  3, -1,  1, -1,  1, -1
/
/  線種の注釈
/
/  書式 : COMMENT-線種名 = 注釈
/
COMMENT-CONTINUOUS = solid line
COMMENT-DASHED     = --- -- -- -- -- --
COMMENT-CENTER     = ---- - - - - - - - -
COMMENT-PHANTOM    = ----- - - - - - - -
/
/ Eof

```

3.4 クラス／ピクチャ 変換テーブルファイル

Advance CAD のクラス／ピクチャと DXF/DWG のレイヤとの対応を指定します。

DXF/DWG 書込みが図面配置のページ指定で行われた場合は、ピクチャとレイヤの対応テーブルを用います。ピクチャ指定で行われた場合は、クラス（レビジョン）とレイヤの対応テーブルを用います。

ファイルのディレクトリはコンフィグレーションのキーワード #DXF:TABLE# で指定してください。ファイル名は ACADDXF_LAYER で固定です。ファイルが存在しないときはピクチャ番号又はクラス番号がレイヤ名になります。

注) 複数のテーブルファイルを作成する場合は、ファイル名 “ACADDXF_LAYER” の後に任意の名前をつけたファイル名にして下さい。コマンドの修飾子『テーブル選択』で選択して使用することができます。

3.4.1 ピクチャ割当ての廃止

PICTURE_OFF class

class : 図面枠に割当てする仮のクラスを指定します。

書込みが図面配置のページ指定で行われた場合にピクチャのレイヤ割当てを廃止し、クラス（レビジョン）をレイヤに割当てます。

3.4.2 複合アイテムのクラスのレイヤ割当ての制御

CLASS_CONTROL	flag
---------------	------

flag : 割当て方法を指示します。

MODEL : モデル定数の結合アイテムの制御に依存。
線種及び線幅の制御が結合アイテムの場合は、結合アイテムのクラスを用います。
線種又は線幅の制御が元のアイテムの場合は、元のアイテムのクラスを用います。

COMPOSITE : 結合アイテムのクラスを用います。

ITEM : 元のアイテムのクラスを用います。

注) 線種及び線幅は、モデル定数の結合アイテムの制御に依存します。

3.4.3 ピクチャの割当て

PICTURE	p = l
---------	-------

p : Advance CAD のピクチャ番号を指定します。
0 は、割当てのないピクチャすべてを意味します。
図面枠はピクチャ 257 で割当てます。

l : DXF/DWG のレイヤ名を指定します。

Advance CAD のピクチャ番号 'p' を DXF/DWG のレイヤ名 'l' に割当てます。

3.4.4 クラスの割当て

CLASS	c = l
-------	-------

c : Advance CAD のクラス番号を指定します。
0 は、割当てのないクラスすべてを意味します。
図面枠はクラス 257 で割当てます。

l : DXF/DWG のレイヤ名を指定します。

Advance CAD のクラス番号 'c' を DXF/DWG のレイヤ名 'l' に割当てます。

注) 図面枠はクラス 257 で割当てます

3.4.5 色コードの割当て

COLOR	color_a = color_d
-------	-------------------

color_a : Advance CAD の色コードを指定します。
0 は、割当てのない色コードすべてを意味します。

color_d : DXF/DWG の色コードを指定します。

Advance CAD の色コード 'color_a' を DXF/DWG の色コード 'color_d' に割当てます。

3.4.6 Advance CAD クラス／ピクチャ → DXF/DWG レイヤ変換テーブルファイルの例

```

/ File name : D:\acad20\prog\maint\ACADDXF_LAYER.COD
/ Date : 2011/07/16 12:00:00
/
/ 図面配置を出力する場合のレイヤ変換
/
/ 書式 : PICTURE_OFF flag
/          flag = 0 : ピクチャをレイヤに変換する
/          = +n : クラスをレイヤに変換する
/          = -n : レビジョンをレイヤに変換する
/          m : 図枠のクラス (レビジョン) 番号 (1-257)
/
PICTURE_OFF 257
/
/ ピクチャを出力する場合のレイヤ変換
/
/ 書式 : LAYER_CONTROL flag
/          flag = CLASS : クラスをレイヤに変換する
/          = REVISION : レビジョンをレイヤに変換する
/
LAYER_CONTROL CLASS
/
/ ピクチャのレイヤ変換
/
/ 書式 : PICTURE ピクチャ番号 = レイヤ名
/
PICTURE 1 = 0
PICTURE 2 = 0
PICTURE 3 = 0
PICTURE 4 = 0
PICTURE 5 = 0
/PICTURE . = 0
/PICTURE . = 0
/PICTURE . = 0
PICTURE 256 = 0
PICTURE 257 = 0
/
/ クラスのレイヤ変換
/
/ 書式 : CLASS クラス番号 = レイヤ名
/
CLASS 1 = 0
CLASS 2 = 0
CLASS 3 = 0
CLASS 4 = 0
CLASS 5 = 0
/CLASS . = 0

```

```

/CLASS      . = 0
/CLASS      . = 0
CLASS      256 = 0
CLASS      257 = 0
/
/ レビジョンのレイヤ変換
/
/ 書式 : REVISION レビジョン番号 = レイヤ名
/
REVISION    1 = 0
REVISION    2 = 0
REVISION    3 = 0
REVISION    4 = 0
REVISION    5 = 0
/REVISION   . = 0
/REVISION   . = 0
/REVISION   . = 0
REVISION    256 = 0
REVISION    257 = 0
/
/ 色の変換
/
/ 書式 : COLOR 色番号 = DXF の色番号
/
/
/
COLOR        0 = 0
COLOR        1 = 0
COLOR        2 = 0
COLOR        3 = 0
COLOR        4 = 0
COLOR        5 = 0
/COLOR       . = 0
/COLOR       . = 0
/COLOR       . = 0
COLOR        255 = 0
COLOR        256 = 0
/
/ Eof

```

3.5 変換パラメータファイル

Advance CAD → DXF/DWG データ変換のパラメータを指定します。

ファイルのディレクトリはコンフィグレーションファイルのキーワード #DXF:TABLE# で指定してください。

ファイル名は DXF 書込みの場合 ACADDXF_PARAM、DWG 書込みの場合 ACADDWG_PARAM で固定です。DWG 書込みで ACADDWG_PARAM がない場合は ACADDXF_PARAM を使用します。DWG 書込みでパラメータを保存すると ACADDWG_PARAM に保存します。

変換時にいくつかのパラメータを変更することができます。

〔変換 PARAM〕 ボタン (コマンド DXFPARAM) を押すと変換パラメータ画面が表示されます。

変更パラメータの画面

Advance CAD → DXF/DWG 変換パラメータ

形式	ASCII	バイナリー	
バージョン	GX-3	R13J R14 2000 2004 2007 2010	
座標系	ペーパー座標	モデル座標	複合図形名
サブモデル	ブロックデータ	図形要素に展開	SUB
シンボル	ブロックデータ	図形要素に展開	SYM
	自動名称	シンボル名	
マーク	ブロックデータ	図形要素に展開	MARK
幾何公差	ブロックデータ	図形要素に展開	FCS
複合アイテム	ブロックデータ	図形要素に展開	COMP
ハッチング	ブロックデータ	図形要素に展開	HACH
寸法線	ブロックデータ	図形要素に展開	*D
ストリング	ポリライン	図形要素に展開	
注記	1行単位	1文字単位	
自由曲線分割数	4		
漢字コード	シフト JIS	EUC UTF-8	
非表示アイテム	変換する	変換しない	
文字角度	角度	2点	
保存		設定 取消	

保存：設定したパラメータを有効にしファイルに保存します。

設定：設定したパラメータを有効にします。＜CE＞も同じ働きをします。

取消：設定したパラメータを取り消します。

変換パラメータのダイアログ

書込み・変換パラメータ

バージョン ☒ GX-3 ☐ R13 ☐ R14 ☐ 2000 ☐ 2004 ☐ 2007 ☐ 2010	形式 ☒ ASCII ☐ バイナリ	座標系 ☒ ペーパー座標 ☐ モデル座標	文字角度 ☒ 角度 ☐ 2点	ストリング ☒ ポリライン ☐ 図形要素に展開
漢字コード ☒ SJIS ☐ EUC ☐ UTF-8	非表示アイテム ☒ 変換する ☐ 変換しない	注記 ☒ 一行単位 ☐ 一文字単位	自由曲線分割数 8	

変換方法	ブロックデータ	図形要素に展開	複合図形名 (自動名称)
サブモデル	☒	☐	SUB
シンボル	☒	☐	SYM
マーク	☒	☐	MARK
幾何公差	☒	☐	FCS
複合アイテム	☒	☐	COMP
ハッチング	☒	☐	HACH
寸法線	☒	☐	*D

☐ パラメータ保存

☐ シンボル名使用

属性変換の画面

属性変換				
レイヤ変換	名称使用	自動名称	変換テーブル使用	説明
変換元	クラス	レビジョン	変換テーブル使用	
命名規則	0 から順に	1 から順に		
線種変換	名称使用	自動名称	番号を名前に	説明
線幅変換	線幅使用	線幅番号 × 線幅ピッチ	変換テーブル使用	説明
線幅のないバージョン	線幅は変換しない	ポリラインに変換	変換テーブル使用	
色変換	自動変換	変換テーブル使用		説明
矢印変換	自動変換	変換テーブル使用		説明
保存 設定 取消				

保存：設定したパラメータを有効にしファイルに保存します。

設定：設定したパラメータを有効にします。<CE> も同じ働きをします。

取消：設定したパラメータを取り消します。

属性変換のダイアログ

書き込み：属性変換

レイヤ

変換元

☒ クラス ☐ レビジョン

☐ 名称使用 名称の設定がない場合

☐ 自動名称 命名規則

☒ 変換テーブル使用

線種

☐ 名称使用 名称の設定がない場合

☐ 自動名称

☒ 変換テーブル使用

線幅

☐ 線幅使用 設定されてない場合

☐ 線幅番号×線幅ピッチ

☒ 変換テーブル使用

線幅を持たないバージョンの処理 (GX-3、R13、R14)

☒ 線幅は変換しない

☐ ポリラインに変換する

色

☐ 自動変換

☒ 変換テーブル使用

矢印

☐ 自動変換

☒ 変換テーブル使用

☐ 設定を保存

設定 取消

3.5.1 DXF の書式を指定

BINARY	n
--------	---

n = 0	:	ASCII で出力します。	(既定値)
n = 1	:	BINARY で出力します。	

3.5.2 DXF/DWG のバージョンを指定

VERSION	Ver
---------	-----

Ver = GX-3	:	GX-3 で出力します。	(DXF 書込みの場合の既定値)
Ver = R13J	:	R13J で出力します。	(DWG 書込みの場合の既定値)
Ver = R14	:	R14 で出力します。	
Ver = 2000	:	2000 で出力します。	
Ver = 2004	:	2004 で出力します。	
Ver = 2007	:	2007 で出力します。	
Ver = 2010	:	2010 で出力します。	

3.5.3 座標系を指定

R13J 以降のときに有効

SPACE	n
-------	---

n = 0	:	ペーパー座標で変換します。	(既定値)
n = 1	:	モデル座標で変換します。	

注) 図面配置ページを出力する場合に有効となります。
ピクチャを出力する場合はモデル座標となります。

3.5.4 サブモデルの変換方法

SUBMODEL	n
----------	---

n = 0	:	ブロックデータに変換します。	(既定値)
n = 1	:	図形要素に展開します。	

3.5.5 シンボルの変換方法

SYMBOL	n
--------	---

n = 0	:	ブロックデータに変換します。	(既定値)
-------	---	----------------	-------

$n = 1$: 図形要素に展開します。

3.5.6 シンボルの複合図形名称

シンボルの変換方法がブロックデータに変換のときのみ有効

SYM_NAME	n
----------	---

$n = 0$: 変換プログラムが自動的に名称を付けます。(既定値)

$n = 1$: シンボル名を複合図形名にします。

注) $n=1$ の時シンボルが ACAD.SET の #SYMBOL# で指定されたディレクトリにあるシンボルを変換します。
ない場合は自動名称になります。シンボルに対して加えられた修正は反映されません。

3.5.7 マークの変換方法

MARK	n
------	---

$n = 0$: ブロックデータに変換します。(既定値)

$n = 1$: 図形要素に展開します。

3.5.8 幾何公差の変換方法

FCS	n
-----	---

$n = 0$: ブロックデータに変換します。(既定値)

$n = 1$: 図形要素に展開します。

3.5.9 複合アイテムの変換方法

COMPOSIT	n
----------	---

$n = 0$: ブロックデータに変換します。(既定値)

$n = 1$: 図形要素に展開します。

3.5.10 ハッチングの変換方法

HATCHING	n
----------	---

$n = 0$: ブロックデータに変換します。(既定値)

R14 以降はハッチングに変換できる場合はハッチングに変換します。

$n = 1$: 図形要素に展開します。

3.5.11 寸法線の変換方法

DIMENSION	n
-----------	---

n = 0 : 寸法線に変換します。(既定値)
n = 1 : 図形要素に展開します。

3.5.12 スtringの変換方法

STRING	n
--------	---

n = 0 : ポリラインに変換します。(既定値)
n = 1 : 図形要素に展開します。

3.5.13 注記の変換方法

TEXT	n
------	---

n = 0 : 1行単位で変換します。(既定値)
n = 1 : 1文字単位で変換します。

3.5.14 自由曲線の変換方法

出力が GX-3 の場合は有効。その他は SPLINE に変換します。

FREE	n
------	---

n : 直線近似の分割数を指定します。(8 ~ 20) (既定値 : 8)

3.5.15 楕円の変換方法

出力が GX-3 の場合は有効。その他は ELLIPSE に変換します。

ELLIPSE	n
---------	---

n = 0 : 楕円を直線近似して出力します。(ポリライン) (既定値)
n = 1 : 楕円を円弧近似して出力します。(ポリライン)
n = 2 : 楕円を円弧近似して出力します。(円弧)

3.5.16 漢字コード

KANJI	n
-------	---

- n = 0 : Shift JIS で出力します。(既定値)
n = 1 : EUC で出力します。

注) DXF/DWG 2007 以降は、UTF-8 で出力します。このパラメータは無視されます。

3.5.17 非表示アイテムの変換

NOSHOW_ITEM	n
-------------	---

- n = 0 : 表示図形として出力します。
n = 1 : 出力しません。

3.5.18 文字角度の変換

TEXT_ANGLE	n
------------	---

- n = 0 : 文字の角度を角度で出力します。(既定値)
n = 1 : 文字の角度を角度および点 P0 - P1 で出力します。

3.5.19 レイヤの変換元を指定

レイヤの変換元を指定します。

Layer_From	n
------------	---

- n = 0 : クラスをレイヤに変換します。(既定値)
n = 1 : レビジョンをレイヤに変換します。

3.5.20 レイヤの変換方法

レイヤの変換方法を指定します。

Layer_Convert	n
---------------	---

- n = 0 : 名称使用。
クラス（レビジョン）の名前をレイヤ名に変換します。
Layer_From でクラス又はレビジョンを指定します。
名前がない場合の処理は Layer_Switch で指定します。

- n = 1 : 自動名称。
自動でレイヤ名を変換します。
レイヤ名の命名規則は Layer_Name で指定します。
- n = 2 : 変換テーブル使用。(既定値)
変換テーブルの指定に従って変換します。

3.5.21 レイヤ名がない場合の処理

クラス（レビジョン）に名前がない場合の処理を指定します。

Layer_Switch	n
--------------	---

- n = 0 : エラーにする。(既定値)
メッセージを出力し処理を中断します。
- n = 1 : 入力する。(ダイアログモードのみ)
設定がないクラス（レビジョン）名を入力します。
名前を入力するダイアログが表示されます。
ウインドウモードでは、エラーにするになります。

3.5.22 レイヤ名の命名規則

レイヤ名の名前の付け方を指定します。

Layer_Name	n
------------	---

- n = 0 : 0 から順に。(既定値)
クラス（レビジョン）番号の若い順にレイヤ名を "0"、"1"... と付けます。
- n = 1 : 1 から順に。
クラス（レビジョン）番号の若い順にレイヤ名を "1"、"2"... と付けます。
- n = 2 : 番号を名前に。
クラス（レビジョン）番号をレイヤ名にします。

3.5.23 線種の変換方法

線種の変換方法を指定します。

LType_Convert	n
---------------	---

- n = 0 : 名称使用。
線種名を線種名に変換します。
名前がない場合の処理は LType_Switch で指定します。
- n = 1 : 自動名称。
自動で線種名を変換します。
線種 1 は、線種名 "CONTINUOUS"（実線）にその他は "LTYPEn" に変換します。
n は線種番号。
- n = 2 : 変換テーブル使用。(既定値)
変換テーブルの指定に従って変換します。

3.5.24 線種名がない場合の処理

線種名が設定されていない場合の処理を指定します。

LType_Switch	n
--------------	---

- n = 0 : エラーにする。(既定値)
エラーメッセージを出力し処理を中断します。
- n = 1 : 入力する。(ダイアログモードのみ)
名前を入力します。
名前を入力するダイアログが表示されます。
ウインドウモードの場合はエラーにするになります。

3.5.25 線幅の変換方法

線幅の変換方法を指定します。

LWidth_Convert	n
----------------	---

- n = 0 : 線幅使用。
線幅を DXF の一番近い線幅に変換します。
線幅がない場合の処理は LWidth_Switch で指定します。
- n = 1 : 線幅番号 × 線幅ピッチ。
線幅番号 × 線幅ピッチを線幅とし DXF の一番近い線幅に変換します。
- n = 2 : 変換テーブル使用。(既定値)
変換テーブルの指定に従って変換します。

3.5.26 線幅がない場合の処理

線幅が設定されていない場合の処理を指定します。

LWidth_Switch	n
---------------	---

- n = 0 : エラーにする。(既定値)
エラーメッセージを出力し処理を中断します。
- n = 1 : 入力する。(ダイアログモードのみ)
線幅を入力します。
線幅を入力するダイアログが表示されます。
ウインドウモードの場合はエラーにするになります。

3.5.27 線幅を持たないバージョンの処理

線幅を持たない DXF のバージョン (GX-3、R13、R14) への変換方法を指定します。

LWidth_Poly	n
-------------	---

- n = 0 : 変換しない。(既定値)
線幅は変換しません。
- n = 1 : ポリラインに変換。(ポリラインに変換できる図形のみ)
線幅を持つ図形をポリラインに変換します。

3.5.28 色の変換方法

色の変換方法を指定します。

Color_Convert	n
---------------	---

- n = 0 : 自動変換。
色を DXF の一番近い色に変換します。
- n = 2 : 変換テーブル使用。(既定値)
変換テーブルの指定に従って変換します。

3.5.29 矢印の変換方法

矢印の変換方法を指定します。

Arrow_Convert	n
---------------	---

- n = 0 : 自動変換。
マークを DXF の矢印に変換します。
- n = 2 : 変換テーブル使用。(既定値)
変換テーブルの指定に従って変換します。

自動変換の場合の既定値は、次の通りです。

ここで設定されていないマークは要素展開されます。

マーク番号	角度	ブロック名	矢印名
3	0	SOLID	塗り潰し矢印
276	0	SOLID	塗り潰し矢印
1	180	_Open30	30 度開矢印
7	180	_ClosedBlank	空矢印
271	180	_ClosedBlank	空矢印
2	180	_Closed	閉矢印
281	180	_Closed	閉矢印
279	180	_Open	開矢印
256	180	_Open90	直角矢印
17	180	_BoxBlank	空白四角
272	180	_BoxBlank"	空白四角
18	180	_BoxFilled	塗り潰し四角
275	180	_BoxFilled	塗り潰し四角
277	180	_Dot"	黒丸
284	180	_ArchTick	ティック (太)
5	180	_Oblique	ティック
280	180	_Oblique	ティック
15	180	_Origin	白丸 1
274	180	_Origin	白丸 1
16	180	_Origin2	白丸 2
4	180	_DotSmall	小黒丸
282	180	_DotSmall	小黒丸
51	180	_DotBlank	空白丸
273	180	_DotBlank	空白丸
283	180	_Small	小空白丸
8	180	_DatumBlank	空白データム
9	180	_DatumFilled	塗り潰しデータム
6	180	_Integral	波形
278	180	_Integral"	波形
270	180	_None	なし

ファイルのディレクトリは ACAD.SET のキーワード #DXF:TABLE# で指定してください。
 ファイル名は ACADDXF_PARAM で固定です。
 ファイルが存在しないときは既定値が用いられます。
 パラメータはコマンド DXFPARAM (変換 PARM) で変更することができます。

3.5.30 Advance CAD → DXF/DWG 変換パラメータファイルの例

```

/ File Name : C:/acad/maint/ACADDXF_PARAM.COD
/   Date   : 2011/07/16 12:00:00
/
BINARY          0
VERSION         2000
SUBMODEL        0
SYMBOL          0
SYM_NAME        0
MARK            0
FGS             0
COMPOSIT        0
HATCHING        0
DIMENSION       0
STRING          0
TEXT            0
FREE            8
KANJI           0
NOSHOW_ITEM     1
TEXT_ANGLE      0
NFS_SWITCH      0
SPACE           1
ELLIPSE         0
/
LAYOUT          1
/
Layer_From      0
Layer_Convert   0
Layer_Switch    1
Layer_Name      0
LType_Convert   0
LType_Switch    1
LWidth_Convert  0
LWidth_Switch   1
LWidth_Poly     0
Color_Convert   0
Arrow_Convert   0
/
/ Eof

```

3.6 文字間隔変換パラメータ

3.6.1 文字間隔の指定

Advance CAD と DXF/DWG との文字間隔の対応を指定します。

STYLE = style, spacing1 [, flag [, spacing2 [, font1 [, font2

```
[, name1 [,name2 [, wid1 [,wid2] ] ] ] ] ] ] ] ]
```

style	:	字体名を指定します。(STANDARD, BIGFONT, TSTANDARD, TBIGFONT)
space1	:	1バイト文字の文字間隔を指定します。(文字高さに対する比率)
flag	:	縦書きの場合“2”指定します。
space2	:	2バイト文字の文字間隔を指定します。(文字高さに対する比率)
font1	:	Advance CAD の1バイト文字のフォント番号を指定します。 0 は、全てのフォント番号を意味します。
font2	:	Advance CAD の2バイト文字のフォント番号を指定します。 0 は、全てのフォント番号を意味します。
name1	:	Auto CAD の1バイト文字のフォント名を指定します。
name2	:	Auto CAD の2バイト文字のフォント名を指定します。
wid1	:	1バイト文字の文字幅を指定します。(文字高さに対する比率) 既定値=0.75
wid2	:	2バイト文字の文字幅を指定します。(文字高さに対する比率) 既定値=0.95

注) DXF ストロークフォント文字幅テーブル (DXFFONTTABLE.DAT) がある場合
このパラメータは無視されます。

ファイルのディレクトリは ACAD.SET のキーワード #DXF:TABLE# で指定してください。
ファイル名は ACADDXF_STYLE で固定です。
ファイルが存在しないときは既定値（下表）が使用されます。

文字間隔既存値

style	space	flag	space2	font1	font2	name1	name2
STANDARD	1.00	0	1.1875	0	0	monotxt	bigfont
BIGFONT	1.00	0	1.1875	0	0	monotxt	
TSTANDARD	1.00	2	1.1875	0	0	monotxt	
TBIGFONT	1.00	2	1.1875	0	0	monotxt	bigfont

3.6.2 2 バイト文字の変換指定

2 バイト文字と 1 バイト文字が混在する場合は、1 バイト文字の変換処理を指定します。

2T01 = flag

flag = 'ON'	: 1 バイト文字に変換します。	
flag = 'OFF'	: 2 バイト文字に変換します。	(既定値)

3.6.3 Advance CAD → DXF/DWG 文字間隔変換パラメータファイルの例

```

/ File name : C:\acad\maint\ACADDXF_STYLE.COD
/   Date : 2011/07/16 12:00:00
/
/ Convert Text Font to Text Style
/
STYLE = STANDARD, 1.00, , 1.1875,,, monotxt, , 0.75, 0.95
STYLE = BIGFONT, 1.00, , 1.1875,,, monotxt, bigfont, 0.75, 0.95
STYLE = TSTANDARD, 1.00, 2, 1.1875,,, monotxt, , 0.75, 0.95
STYLE = TBIGFONT, 1.00, 2, 1.1875,,, monotxt, bigfont, 0.75, 0.95
/
/2T01 = ON
/
/ Eof

```

3.7 寸法矢印変換パラメータ

3.7.1 マークの矢印割当て

Advance CAD のマークと DXF/DWG の寸法矢印の対応を指定します。

ARROW mark, angle = block

mark	: マーク番号を指定します。
angle	: Advance CAD のマークと DXF の矢印の角度の違いを指定します。(0 又は 180)
block	: 矢印（ブロックデータ）名を指定します。

注) ここで設定されなかったマークは要素展開されます。

3.7.2 寸法矢印変換パラメータの例

```

/ File name : C:\acad\maint\ACADDXF_ARROW.COD
/   Date : 2011/07/16 12:00:00
/
/ Convert Mark to Arrow
/
/ 書式 : ARROW マーク番号, 角度 = 矢印名
/
/ 矢印名は次の名前が使用できます。
/   SOLID          塗り潰し矢印
/   _Open30        30 度開矢印
/   _ClosedBlank    空矢印
/   _Closed        閉矢印
/   _Open          開矢印
/   _Open90        直角矢印
/   _BoxBlank       空白四角
/   _BoxFilled      塗り潰し四角
/   _Dot           黒丸

```

```

/   _ArchTick          ティック (太)
/   _Oblique           ティック
/   _Origin            白丸 1
/   _Origin2           白丸 2
/   _DotSmall          小白丸
/   _DotBlank          空白丸
/   _Small             小空白丸
/   _DatumBlank        空白データム
/   _DatumFilled       塗り潰しデータム
/   _Integral          波形
/   _None              なし
/
/   注) ここで設定されていないマークは要素展開されます
/
/
ARROW    3, 180 = Solid
ARROW   276, 180 = Solid
ARROW     1, 180 = _Open30
ARROW     7, 180 = _ClosedBlank
ARROW   271, 180 = _ClosedBlank
ARROW     2, 180 = _Closed
ARROW   281, 180 = _Closed
ARROW   279, 180 = _Open
ARROW   256, 180 = _Open90
ARROW    17, 180 = _BoxBlank
ARROW   272, 180 = _BoxBlank
ARROW    18, 180 = _BoxFilled
ARROW   275, 180 = _BoxFilled
ARROW   277, 180 = _Dot
ARROW   284, 180 = _ArchTick
ARROW     5, 180 = _Oblique
ARROW   280, 180 = _Oblique
ARROW    15, 180 = _Origin
ARROW   274, 180 = _Origin
ARROW    16, 180 = _Origin2
ARROW     4, 180 = _DotSmall
ARROW   282, 180 = _DotSmall
ARROW    51, 180 = _DotBlank
ARROW   273, 180 = _DotBlank
ARROW   283, 180 = _Small
ARROW     8, 180 = _DatumBlank
ARROW     9, 180 = _DatumFilled
ARROW     6, 180 = _Integral
ARROW   278, 180 = _Integral
ARROW   270, 180 = _None
/
/ Eof

```

第 4 章 DXF 文字修正

4.1 文字修正コマンド

DXF/DWG 読み込みで変換したデータの 1 文字ずつばらばらに変換された文字を文字列に修正します。

- (1) 主メニューの〔データ変換 オプション〕をクリックし、コマンドメニューの〔文字修正〕をクリックします。
- (2) 主メニューの〔選択〕をクリックし、統合する文字アイテムをピックアップしていきます。選択済みのアイテムを外すときは、コマンドメニューの〔解除〕を押して外す文字アイテムをピックアップして下さい。
- (3) 文字アイテム選択終了後、リターンキーで実行します。

● コマンド構文

【メニュー】

〔データ変換 2〕 → 〔文字修正〕

【構文】

DXF/TEXT	$\left\{ \begin{array}{ll} \text{SELONN} & [\text{sel}] + \\ \text{SELOFF} & [\text{sel}] + \\ \text{USEACT} & \end{array} \right\} \langle \text{CE} \rangle$
----------	--

文字列に変換する文字を選択します。

- | | | | |
|--------|-----|---|--|
| SELONN | sel | : | 文字を選択します。
1 アイテムまたは矩形領域の選択が可能です。
1 字の文字のみが選択対象となります。 |
| SELOFF | sel | : | 文字の選択を解除します。
1 アイテムを選択します。 |
| USEACT | | : | アクティブリストに乗っている文字を対象とします。 |

修正処理を開始する。

- | | | |
|------|---|-------------|
| ⟨CE⟩ | : | 修正処理を開始します。 |
|------|---|-------------|

第 5 章 線種設定・変更

5.1 線種設定・変更コマンド

線種の設定・変更を行います。

- (1) 主メニューの〔データ変換 オプション〕をクリックし、コマンドメニューの〔線種設定〕をクリックします。
- (2) 画面に表示された〔名前〕をクリックし、線種名を入力します。
〔描画〕または〔空白〕をクリックし、線種ピッチを入力します。
- (3) 入力終了後〔設定〕または〈CE〉で入力内容を有効にします。〔取消〕で入力内容を取消します。

注) 線種番号 1 は、CONTINUOUS (実線) で固定です。変更できません。
入力内容は、モデル保存でモデルに保存されます。

● コマンド構文

【メニュー】

〔データ変換 2〕→〔線種設定〕

【構文】

DXF/LTYPE	[pick]+	[DXFSCALE scl]	<CE>
-----------	---------	----------------	------

設定・修正する線種を選択します。

- | | | |
|--------------|---|--|
| pick txt | : | 〔名前〕をピックして線種名を入力します。
空白は名前を取消します。
線種名は必須です。 |
| pick pit | : | 〔描画〕〔空白〕をピックして線種ピッチを入力します。
〔描画〕と〔空白〕は必ずペアで入力します。
0 を入力すると取消になります。
最低 1 組の〔描画〕と〔空白〕の入力が必要です。 |
| pick num | : | 〔番号〕をピックして倍率を掛ける線種を選択します。
複数選択できます。 |
| DXFSCALE scl | : | 線種ピッチに掛ける倍率を入力します。
注) この機能はモデル座標系で設定された DXF の
線種ピッチを Advance CAD のペーパー座標系の
線種ピッチに変更します。 |

線種の表示方法を設定します。

- | | | |
|------------|---|----------------------|
| 〔固定〕をピック | : | 線種ピッチを固定で表示します。 |
| 〔縮尺反映〕をピック | : | 線種ピッチに倍率を反映させて表示します。 |

線種名を自動設定します。

- 「自動名称」をピック

：自動で線種名を設定します。
線種 1 は、CONTINUOUS で固定です。
線種 2 以降は、LTYPE2、LTYPE3、... と名前を付けます。
- 「元に戻す」をピック

：線種名を初期状態に戻します。
- 入力を終了します。

<CE> または「設定」をピック

「取消」をピック

：入力内容を有効にします。
：入力内容を取消します。

線種設定・変更の画面

線種設定

線種表示 固定
* 縮尺反映

自動名称 自動名称
元に戻す

注) 線種 1 は CONTINUOUS で固定です。変更できません

番号	名前	描画	空白	描画	空白	描画	空白	描画	空白
1	CONTINUOUS		1.0						
2	DASHED	2.0	1.0						
3	CENTER	3.0		1.0	1.0				
4	PHANTOM	7.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	描画	空白
5									

32

< 次頁 >

設定 取消

線種設定・変更のダイアログ

線種設定

番号	名前	描画1	空白1	描画2	空白2	描画3	空白3	描画4	空白4
1	CONTINUOUS								
2	DASHED	2.0	1.0						
3	CENTER	3.0	1.0	1.0	1.0				
4	PHANTOM	7.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0		
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									

線種ピッチに倍率 1.0 を 掛ける

自動名称
自動名称
元に戻す

線種表示
☒ 固定
☐ 縮尺反映

設定 取消

第 6 章 線幅設定・変更

6.1 線幅設定・変更コマンド

線幅の設定・変更を行います。

- (1) 主メニューの〔データ変換 オプション〕をクリックし、コマンドメニューの〔線幅設定〕をクリックします。
- (2) 画面に表示された〔番号〕または〔線幅〕をクリックし、線幅を入力します。
- (3) 入力終了後〔設定〕または〈CE〉で入力内容を有効にします。〔取消〕で入力内容を取消します。

注) 線幅番号 1 は、幅 (0.0) で固定です。変更できません。
設定内容は、モデル保存でモデルに保存されます。

● コマンド構文

【メニュー】

〔データ変換 2〕→〔線幅設定〕

【構文】

DXF/LWIDTH [pick]+ <CE>

設定・修正する線幅を選択します。

pick scl : 〔番号〕または〔線幅〕をピックして線幅を入力します。
0 を入力すると取消になります。
画面右側に表示されている線幅一覧をピックして入力することもできます。

線幅の表示方法を設定します。

〔線幅非表示〕をピック : 線幅は表示しません。
〔線幅番号 × ピッチで表示〕をピック : 線幅番号 × ピッチで線幅を表示します。
〔実線幅で表示〕をピック : 設定された線幅で表示します。

線幅を自動で設定します。

〔線幅番号 × ピッチ〕をピック : 線幅番号 × ピッチで線幅を設定します。
線幅番号 × ピッチで求めた線幅を
DXF の一番近い線幅に設定します。
〔元に戻す〕をピック : 線幅を初期状態に戻します。

入力を終了します。

<CE> または〔設定〕をピック : 入力内容を有効にします。
〔取消〕をピック : 入力内容を取消します。

線幅設定・変更の画面

線幅設定

番号

線幅

1

0.0

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

線幅表示

線幅非表示

* 線幅番号 × ピッチで表示 (固定)

実線幅で表示 (縮尺反映)

自動線幅

線幅番号 × ピッチ

元に戻す

設定

取消

番号

線幅一覧

1

0.0

2

0.05

3

0.09

4

0.13

5

0.15

6

0.18

7

0.2

8

0.25

9

0.3

10

0.35

11

0.4

12

0.5

13

0.53

14

0.6

15

0.7

16

0.8

17

0.9

18

1.0

19

1.05

20

1.2

21

1.4

22

1.58

23

2.0

24

2.11

注) ここでの線幅設定は DXF で使用されている線幅の設定になります。

線幅一覧で表示されている線幅を設定することができます。

線幅 1 の 0.0 は固定です。変更できません。

線幅設定・変更のダイアログ

線幅設定

番号

線幅

1

0.0

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

線幅表示

非表示

線幅番号×ピッチで表示

実線幅で表示

自動線幅

線幅番号×線幅ピッチ

元に戻す

設定

取消

索引

Numerics	
2TO1	32, 60

A	
AC1006	1
AC1009	1
AC1012	1
AC1014	1
AC1015	1
AC1018	1
AC1021	1
AC1024	1
ACADDWG_PARAM	49
ACADDXF_LINE	42
ACADDXF_PARAM	49
AREAFILL	22
ARROW	30, 61
ARROW_CONVERT	28
Arrow_Convert	58

B	
BINARY	52
BLOCKTOSYM	24

C	
CLASS	47
CLASS_CONTROL	47
COLOR	13, 47
COLOR-CLASS	17
COLOR_CONVERT	28
Color_Convert	58
COLOR-REVISION	17
COLWIDTH-SWITCH	12
COMMENT-Ln	43
COMPOSIT	53

D	
DEFAULT_LWIDTH	28
DIM_2TO1	32
DIM_ANGLE	24
DIMENSION	23, 54
DWG/READ	8, 9
DWG/WRITE	37
DWGACAD_PARAM	19
DwgIO.exe	5, 35
DXF/LTYPE	65
DXF/LWIDTH	67
DXF/READ	8, 9
DXF/TEXT	63
DXF/WRITE	37
DXFACAD_LAYER	16
DXFACAD_LINE	12
DXFACAD_PARAM	19

E	
ELLIPSE	54

F	
FCS	53
FREE	54

H	
HATCHING	53

K	
KANJI	22, 55

L	
LAYER	17
LAYER_CONVERT	26
Layer_Convert	55
Layer_From	55
Layer_Name	56
LAYER-REVISION	17
LAYER-SWITCH	17
Layer_Switch	56
LAYER_TO	27
LAYOUT_BOX	25
LINE-FONT	42
LINE-FONT1	42
LINE-FONT2	42
LINE-TYPE	12
LINE-WIDTH	13, 43
LNAME_CONVERT	27
LTYPE_CONVERT	27
LType_Convert	56
LType_Switch	57
LWIDTH_CONVERT	27
LWidth_Convert	57
LWidth_Poly	57
LWidth_Switch	57

M	
MARK	53
MODEL_ITEM	23
MTEXT_WORDWRAP	25

N	
NOSHOW_ITEM	24, 55

P	
PICTURE	47
PICTURE_OFF	46
PITCH-Ln	43
POLWIDTH-SWITCH	12

R	
ROUND_ANGLE	26
ROUND_FIGURE	26
ROUND_FLOAT	25

S	
SPACE	52
SPC_MDL	38
SPLINE	26
SPLINE_LINE	26
STRING	54
STYLE	31, 60
SUBMODEL	52
SUBMODEL_ITEM	23

SYMBOL	52
SYM_NAME	53
SYMOVERWT	25

T

TEXT	54
TEXT_ANGLE	23, 55
TEXT_CONVERT	29

V

VERSION	52
---------------	----

W

WIDTH	13
WIDTH-TYPE	42
WIDWIDTH-SWITCH	12

Z

線種・線幅変換テーブル	42
文字間隔変換パラメータ	60, 61
変換パラメータファイル	49

く

クラス／ピクチャ 変換テーブルファイル	46
---------------------	----

て

データ 変換パラメータファイル	19
-----------------	----

れ

レイヤと色変換テーブルファイル	16
-----------------	----